

かねざわ 第82号

2022年(令和4年)11月

- (P-2) 2023年度の会員継続手続きのお知らせ
(P-3) 第2回、第3回、第4回学習会記録
(P-45) 寺社を巡る会20周年記念行事を終えて(代表:横山美智男)

目次

運営委員会からのお知らせ

2 2023年度の会員継続受付のお知らせ
学習会

3 第2回学習会
【中先代の乱と「鎌倉合戦」】

10 第3回学習会
「湘南電鉄と金沢文庫」
—楠山永雄コレクション鉄道資料—

16 第4回学習会
【武州金沢米倉家と幕末維新】

分科会からの便り

24 「寺社を巡る会」活動記録

28 「古文書を読む会」学習記録

30 「ふれあいの道歩こう会」実施概要 38

32 「懐かしの映画を観る会」鑑賞録 40

38 「浮雲俳句会」抄録 58

42 「パソコンを使いこなす会」実施報告(10)

記念行事寄稿

45 寺社を巡る会20周年記念行事を終えて

48 行事予定

【お願い】 会員の皆さまの寄稿をお待ちしています



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー - ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

金沢区生涯学習“わ”の会 2023年度の会員継続受付のお知らせ

1. 会員継続の申込受付

2023年度の“わ”の会への入会は、例年通り現会員を優先といたします。現会員の継続受付は、10月の学習会から開始し、来年2月の公開歴史講座まで受け付けます。継続を希望される場合は領収書・申込書に必要事項をご記入のうえ、年会費3,000円を添えてお申込下さい。また、継続ご希望で、学習会での手続きが出来なかった場合は、2月28日(火)までに下記(2)の銀行口座へ年会費3,000円をお振込下さい。なお、2023年2月28日をもって、会員の優先申込を締切らせて頂きます。

- | | |
|----------------|---|
| (1) 学習会で申込の場合 | 申込書にて申してください (10月、11月の学習会、2月の公開歴史講座) |
| (2) 銀行振込で申込の場合 | 振込先
横浜銀行 金沢支店 (店番号 351) 普通預金口座番号 1324219
名義人 金沢区生涯学習わの会 代表 江口 正彦 (エグチ マサヒコ) |

2. 2023年度の学習会計画

学習会ごとの皆様からのアンケートなどを参考に、下表のような2023年度の学習会計画を作成しました。講師・会場・テーマにつきましても、一部変更の可能性のあるものもございます。それらにつきましては確定次第、会報やホームページでお知らせいたします。

回	開催日	テーマ	講師	会場	
1	5/13 (土)	9:30~10:30	総会	運営委員会	能見台地区センター
		10:45~12:00	「イトーヨーカドー」「デニーズ」「セブンイレブン」創業の物語	横浜市立大学名誉教授 野々山 隆幸氏 (“わ”の会会員)	能見台地区センター
2	6/10(土)	源氏将軍の断絶と北条義時・三浦義村	青山学院大学 非常勤講師 真鍋 淳哉氏	金沢地区センター	
3	7/8(土)午後	金沢北条氏の歴史	中世内乱研究会 総裁 細川 重男氏	能見台地区センター	
4	8/18(金)	金沢文庫展示関連 (詳細未定)	県立金沢文庫学芸員	県立金沢文庫	
5	9/10(日)	中世の東国と西国	青山学院大学 文学部史学科 准教授 谷口 雄太氏	金沢地区センター	
6	10/13(金)	[探訪] 猿島巡り	探訪実行委員会 NPO法人 よこすかシティガイド協会	猿島	
7	11/11(土)	調整中	鶴見大学、大妻女子大学他 非常勤講師 石澤 一志氏	能見台地区センター	
8	公開歴史講座 2024年 2月10日(土)	襖の下張りが語る武州金沢一襖から古文書を取る方法、武州金沢藩御用達商人長島の古文書から	金沢古文書を読む会 代表 飯塚 玲子氏 (“わ”の会会員) 長島家 当主 長島 輝信氏	能見台地区センター	

2022年度 第2回学習会

『中先代の乱と「鎌倉合戦」』

会報編集委員 橘 博章

開催日：2022年7月16日（土）

13：30～16：30

会 場：横浜市立大学 カメラホール

講 師：中世内乱研究会 会長 鈴木 由美 氏



【概 要】

はじめに

今回の学習会は、中先代の乱と「鎌倉合戦」と言うちょっとマイナーなテーマでした。「鎌倉合戦」とは聞いたことがない、新田義貞の稲村ヶ崎の話かな、それにしても順番が逆ではないかと不思議に思っていました。鈴木先生の講演により、中先代の乱の後、足利尊氏が鎌倉に攻め込んできた戦いを「鎌倉合戦」と先生が命名したとの説明で納得できました。鎌倉、辻堂、片瀬等の地名、足利尊氏、直義兄弟、護良親王等、馴染みの英雄たちが次から次へと出てきましたのでハラハラドキドキ、とても楽しめました。

【鎌倉幕府滅亡】

鎌倉時代も成立以来、約150年も経過し、土地の相続に関しては分割相続が採用され、そのため時代が下るごとに御家人の所領は細分化し、生活を圧迫することになってしまいました。また小氷河期がこの状態に拍車を掛け、戦乱は無いものの低成長時代がずっと続きます。そんな時に、朝廷側が自分たちの派閥争いの調停を幕府に求めて来ました。幕府は朝廷内の争いに巻き込まれていくこととなります。当時の武士たちにとっては長い低

成長期を払拭する機会が到来したように思えたことでしょう。幕府を倒せば幕府側についていた御家人たちの所領を我が物に出来る千載一遇のチャンスが訪れたのです、待ちに待った高度経済成長の始まりです。また、倒幕を望んでいる天皇や公家達にとっても、自前の戦力を持たないため、両者の利害は完全に一致し、鎌倉幕府打倒を共闘できたわけです。

【中先代の乱とは？】

1333年5月、鎌倉幕府が元弘の乱により滅亡すると、後醍醐天皇による新しい政治が始まりました。建武の新政（中興）です。天皇や貴族たちは自分たちが直接戦闘には参加しないために現場で実際に戦った武士たちが何のために自分たちに味方してくれたのかを理解せず、彼等の恩賞をないがしろにしました。自分達の高度経済成長を夢見ていた武士達の怒りと失望は凄まじく、地方では建武の新政に対する不満から反乱を起こす者が次々と現れました。

そして、反乱を起こした人物の一人が滅ぼされた北条高時の遺児、北条時行です。この北条時行が

起こした反乱を「中先代の乱」と呼びます。北条時行にとっては父の弔い合戦であり、武士の政権の再興を願うものでした。北陸の北条氏残党と合流し、5万ともいわれる兵力で信濃国から鎌倉めがけて快進撃。連戦連勝で瞬く間に武蔵国に入り、目指すは鎌倉。当時、鎌倉を守っていたのは足利尊氏の弟の足利直義、鎌倉に「北条時行挙兵！」の情報が伝わるのが遅れたこともあり、鎌倉防衛戦は後手後手に回り、後れを取った足利軍は、北条時行に鎌倉への接近を簡単に許してしまいます。7月22日、井出沢（今の東京都町田市内）で北条時行軍と戦うも敗走、三河へと落ちのびます。鎌倉に幽閉されていた護良親王は、北条時行に担がれることを恐れた足利直義により、殺害されます。そして1335年7月24日、北条時行は遂に鎌倉を奪還しました。

7月22日の戦いの後、井出沢から鎌倉までの40Kmを2日間で進撃したことになります。

【足利尊氏の反攻】

当時、足利尊氏は京にいました。8月1日、弟の直義敗北の報を受けると、すぐに直義救援に向かおうとします。しかし、官軍として北条時行と戦うには後醍醐天皇の許可が必要です。足利尊氏は、「征夷大將軍」と「惣追捕使（そうついでし）」と言う役職を後醍醐天皇に要求しました。征夷大將軍は名前だけで中身のない名誉職ですが、権威性があります。惣追捕使は、戦争を理由に各地の収獲物を徴収できる権限を持つ役職です。

尊氏は北条軍を強力な敵と判断し、勝利には権威と兵糧確保が第一と考えたのでした。ところが、後醍醐天皇はこれを全て拒否します。鎌倉幕府を開いた源頼朝も、戦時中限定だった惣追捕使の権限を、平時にも適用することで各地に守護・地頭を配置した過去があります。

足利尊氏は当時、建武の新政に不満を持つ多くの御家人の求心力になっており、その尊氏にこれ以上の権力や権威を与えることはとても危険な行為だと考えたのでしょう。

後醍醐天皇から拒否された次の日の8月2日、尊氏は、後醍醐天皇の制止を無視して、三河へと進軍します。

（鈴木先生の資料から）

8月8日：三河矢作で足利直義と合流。

8月9日：遠江橋本で合戦。

進撃速度50Km/日？

8月12日：遠江小夜中山で合戦。

行軍距離約60Kmを3日

進撃速度20Km/日

8月14日：駿河国府で合戦。

行軍距離約40Kmを2日

進撃速度20Km/日

8月17日：相模箱根はじめ諸所で合戦。

行軍距離約85Kmを3日

進撃速度29Km/日

8月18日：相模川で合戦。

行軍距離30Kmを1日

進撃速度30Km/日

8月19日：相模辻堂・片瀬原で合戦

鎌倉奪還に成功。

行軍距離15Kmを1日

残敵の掃討戦の状況だと考えられます。

旧帝国陸軍の行軍速度は20~25Km/日とされています。これは通常の行軍速度です。足利尊氏の進撃速度は戦闘を行いながらですから、いかに足利尊氏がスピードを要求したのかがわかると思います。当時の言葉でいえば、「戦いの勢いがある」と表現するのでしょうか。相手に反撃のチャンスを与えておりません。北条側は第2防衛戦線を築く間もなく戦線を突破され、どの戦線でも準備不足の不完全な防衛線しか構築できていません。足利軍はまさに、アレキサンダー大王やナポレオンの戦争を彷彿とするような戦いぶりです。戦争音痴の後醍醐天皇や公家達の言う事を聞いていたら、このような結果は残せなかったでしょう。いかに足利尊氏が戦争を急いだかが伺われるというものです。北条時行に時間を与えると鎌倉奪還が困難になり、ついには不可能になると考えたのではないのでしょうか。高度経済成長を願っていた多くの御家人・悪党たちが北条側に付き従うことを恐れたと考えられます。これは足利尊氏が戦略的・政治的に非常に優れた判断を持っていた証ではないのでしょうか。

8月19日には、鎌倉は足利尊氏によって奪還され中先代の乱はここに鎮圧されることとなります。

【南北朝の始まり】

中先代の乱は新たな戦乱の始まりにすぎません。中先代の乱は、鎌倉を北条時行から奪い返したことで、戦いは終わったように思えますが実はそうとはなりません。なぜ、中先代の乱が一時とはいえ成功し、多くの武士たちが北条側に味方したのか、なぜ多くの武士たちが尊氏側に付いたのか。それを踏まえ、今後決して朝廷側に恩賞を与える権利を渡してはならない。もし渡したなら自分が北条の二の舞になると考え、配下の者に直接尊氏自身が報賞を与え始めました。これが、新たな戦乱を開くこととなります。

尊氏自身が建武の新政下では、武士は絶対に浮かばれない、武士は武士にしか統御出来ないと考えたことは今更論を待たないでしょう。しかし朝廷には武力はありませんが権威があります。この権威と高度経済成長を願う武士たちが敵味方に分かれての戦いが始まりました。一見すると残党軍の最後の抵抗に過ぎない中先代の乱は、実は新たな戦乱の幕開けになってしまいました。鎌倉幕府が

滅び朝廷権力も失墜する中、権力者不在の長い混沌の時代へと突入して行ったのです。

おわりに

我々は歴史を学ぶときに気を付けてはいるものの「鎌倉時代」は1333年に終わり、次の年から全く別の時代が始まると考えてしまいがちですが、実際には連続性があり同じ人物が同じ時代を生きているのです。平成が終わって令和になったからと言って世の中の制度・仕組みが大きく変わることはありません。しかし、鎌倉時代と建武の時代では本当に世の中の制度・仕組みが大きく変わり、当時の人がそれに戸惑い、怒り、当惑したであろうことが具体的に解る講演でした。

最後に、今回の鈴木先生の講演を拝聴して、これこそ歴史を学んでいるのだと実感したことです。講演の中の登場人物一人一人が生き生きと語られ、まるでその人が目の前にいるような実感を堪能できた時間でした。

2022 年度第 2 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.7.16 雨のち曇り)

『中先代の乱と「鎌倉合戦」』 講師：鈴木 由美氏

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	合計	アンケート(提出率%)
	男	62	7	69(75.8)	2	71	
	女	16	0	16(66.7)	1	17	
計		78	7	85(73.9)	3	88	46/81

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
14名	23名	8名	0名	1名

- ・正慶年号を北条時代が認めなかった事は光厳天皇と連携していたためでしょうか。
- ・専門的過ぎて全体がよく理解できなかった。
- ・内容的には素晴らしいが、ターゲットが違うかもしれない。細かすぎて、少々疲れたかも。講師の熱心な話には感心いたしました。が学問研究ではないので、もっと大雑把の方が～
- ・興味深く突っ込んだ話をしていただきましたが、話し方がもう少しスムーズだとわかりやすかった。
- ・中先代の乱と「鎌倉合戦」とは、初めて聞きました。勉強になりました。
- ・極めて丁寧に説明されました。
- ・資料が良く作られている。
- ・鎌倉幕府がほろんで足利の室町幕府の間にいろいろな合戦があり、すんなり時代が変わったわけではない事が良く分かった。しかしながらなぜこのような短い期間の事が最近クローズアップされているのはなぜなのかなと思う。歴史は教科書に書いてある以外いろいろな事が隠れている。
- ・いつも思うように人の名とそのつながりを理解するのに苦労している。自分の不勉強さを悔やむ。多くの資料提示感謝いたします。
- ・比較的マイナーな歴史事跡に興味を持てた。
- ・丁寧な説明でしたが、添付資料の内容を追いつらかった。
- ・鎌倉(北条)時代の終わり(末期)の歴史の知識がほとんどなかった。有意義でした。勉強となりました。
- ・中先代の乱のみならず、建武政権に対する全国の反乱の多さを改めて認識。建武の新政権のスッキリ感の無さが露呈した思いです。資料と説明の連携が今一つレジュメの内容を考えると少し残念
- ・最初は理解するのに手間取ったが最後には一連の流れがつかめた。興味深い歴史だと認識した。レビューしてみたい。
- ・個人的に興味あるテーマでありながら一般には詳細が不明なものであったので興味深く拝聴できた。
- ・中先代の乱と「鎌倉合戦」の内容、概況がいくらか分かった。足利尊氏方の勝利により、室町幕府が確立する契機となることが分かった。
- ・中世の内乱について知識がないので、知ることが出来て良かった。
- ・充実した各資料と微細にわたる説明
- ・「中先代の乱」は知りませんでしたので詳しく説明を受けて知ることが出来ました。

- ・初めて参加させていただきました。歴史は苦手ですが、興味は持てそうです。身近なところから、学習していきたいと思います。
- ・鎌倉合戦の概念を知ることができた。
- ・テーマは大変興味あるが、説明の切り口としてさらに分かり易い方法がほしい。引用が多すぎて分り難い。
- ・前回 2015 年は入会していなかったが、かねざわ第 55 号で事前に予習してきたので理解を深める事が出来た。来週の BS での再放送も楽しみです。
- ・私が、持っていたのは、鎌倉幕府滅亡→室町幕府成立と小中学校レベルの知識でした。北条与党によるいろいろな反乱があったことを知りました。詳しいわかりやすい資料をありがとうございました。
- ・資料も少ないのでは、と思われる中で、色々な視点で分析されている内容について、直に拝聴する機会を頂けてありがたかったです。
- ・分かり易い説明でした。
- ・「中先代の乱」に代表される？室町幕府に対する反乱が理解できた。
- ・ごめんなさい、途中ちょっと寝ましたけど・・・
- ・時節を取り入れた調査研究が多いので
- ・自身の理解不足で年代的になじみがなく所々しか内容が吸収出来なかった。
- ・時行に焦点をしばって話して欲しかった。つまり、中先代の乱をもっと深く。
- ・初めて参加して細かいところまで面白かった。今度「太平記」をもう一回読もうと思った。
- ・今後理解を深めるために講師の著書を読んで見たいと思います。
- ・時系列な流れを説明され高時死去後、時行の行動が太平記等、古文書により解かれ分かりやすかった。
- ・面白かったです。
- ・資料を多く添付されておりますので、それを基に各自勉強するようにと受け取りました。
- ・「中先代の乱」他に幾多の合戦があった事に驚いた。

②鈴木講師に希望する講演テーマについて

- ・鎌倉幕府権力を考える。
- ・ターゲットをはっきり説明した上で、鎌倉時代の説をお聞きしたい。
- ・鎌倉幕府再興の夢をテーマとした話で詳しくお聞きしたい。
- ・南朝後醍醐天皇の動向について。
- ・知らないことがたくさんあるのでテーマを絞ることは出来ませんが、(以前に学習会のテーマになっているかもしれませんが)金沢北条氏に興味があります。
- ・他に研究されている内容、テーマがあれば、またご拝聴したいです。
- ・平家、源氏、北条と時代の流れと出来事など一般的内容
- ・源氏将軍・摂家将軍、天皇家親王、将軍家執権、連署、王朝官職位階、任官、叙位等を易しく説明して欲しい 仮名とは？

③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
14名	20名	4名	0名

※チェック無し：8名

- ・中高年者出席が多い学習会開催でコロナ対策を十二分に配慮されたご努力に役員の方々にありがとうございました。
- ・マイクがこもり過ぎて聞きづらかった。運営については感謝。
- ・いつもありがとうございます。
- ・ご苦労さまでした。
- ・コロナが収まらない中、御心労させられます。
- ・コロナ禍の中いつも御苦労様ありがとうございます。皆さま御身体大切に。
- ・コロナ対策：十分 冷房：キキ過ぎ
- ・いつもながら、お世話様でした。
- ・いつもながらの学習会の運営お疲れ様です。
- ・コロナ禍において心配の種が尽きませんのでご苦労の程がよーくわかりうれしく思っております。
- ・整然とした運営ありがとうございます。皆さん真剣な態度で営んでいる。
- ・コロナ感染者が増す中、消毒液など色々なご配慮をしていただきありがとうございます。対面での講演は、やはり伝わるものがあり私は好きです。
- ・テーマ設定も、内容も楽しく拝聴しました。
- ・運営、進行が素晴らしい。
- ・会場が良かった、運営もスムーズに行われた。
- ・荒天にも関わらずありがとうございました。
- ・資料の配布、進行良し
- ・更に地元を知るよい機会だった

④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・こんなに大人数で、立派な運営をしている会とは思いませんでした。今後はジェネレーション？に合った要素もあるといいなア 若い世代の参加も必要かも 役員の方のご努力に感謝。
- ・お世話になります。
- ・参加される皆さまが高齢ですが、たくさんお参加される“わ”の会は貴重だと思います。
- ・復習します。(人名など色々話に出てきて関、連がよくわからなかった)
- ・学習会、とても楽しみにしています。いろいろ勉強になります。
- ・今回もありがとうございました。
- ・運営を担当する方、大変ですが宜しく願います。

運営委員代表の意見・感想

鈴木由美氏には 2015 年に「中先代の乱」について講演いただきましたが、今年の歴史まんが「逃げ上手の君」

のブームと、「中先代の乱」―北条時行、鎌倉幕府再興の夢―の発刊に併せて『中先代の乱と「鎌倉合戦」のテーマでの講演をお願いしました。

鎌倉幕府が足利尊氏に滅ぼされた後、北条時行が諏訪から兵を起こして攻め上がり、鎌倉を陥落したが、わずか 20 日ほどで足利尊氏によって鎮圧されてしまう。しかし、「先代」北条氏・「当御代」足利氏の間で「中先代」呼ばれるように一時代として認められたようだ。

また、歴史まんがで「逃げ上手の君」と言われるように 3 度も行方不明になりながら関東武士北条一族の再興を夢見て兵を起こし足利氏に抵抗してきた。このことから、中先代の乱以後南北朝、室町と混乱の時代が続いていったように思われる。

あまり有名でないが、鎌倉北条氏→室町足利氏と思われがちであるがその間にこの時行の 3 度の乱があり、また全国的にも武士同士の争いが起こっていることが今回の講演で理解することが出来た。

解説とレジュメ、スライドの流れがもう少しいいと、良かったのでは思いました。

“わ”の会代表 江口正彦

2022 年度第 3 回学習会 鉄道開通 150 年記念企画展

湘南電鉄と県立金沢文庫― 楠山永雄 コレクション 鉄道資料―

会報編集委員 松崎 寛

開催日：2022 年 8 月 19 日（金）10：00～11：30

会場：県立金沢文庫 地下大会議室及び展示室

講師：山地 純氏（神奈川県立金沢文庫 主任学芸員）

はじめに

県立金沢文庫では、すでに二回にわたって故楠山永雄氏が収集した 金沢八景関連資料群である楠山コレクションを展示している。しかし 7000 点にも及ぶコレクションの全貌を展示することはむずかしい。今回は鉄道開通 150 年を記念して、鉄道関連事業を中心に 1200 点が展示されたものである。

また、金沢区の洲崎で中世から交易と海運で活躍していた山口家の文書（「里見梅王丸朱印状」）が昨年度に寄贈されたことを記念し、また、海の交通に関わるものとして、山口家関係文書を展示した。

展示内容について、地下大会議室で講演及び展示室で説明いただいた。

1. 山口家文書

講演は、山口家文書の説明から、始まった。

山口家は、小田原北条氏の支配する洲崎に本拠がありながら、敵対する房総の里見・正木家から印判状を手に入れ、両国で活動を行っていた。今回の展示は、いずれも山口越後守宛文書で、航行や商売の自由、諸役免除等を保障したもの。

① 「里見梅王丸朱印状」天正 7 年（1579）9 月 26 日（印判は朱印で鳳凰）

梅王丸は里見義弘の子。本文書が寄贈されたもの。横浜市指定有形文化財。

② 「正木憲時朱印状」天正 7 年 5 月 6 日（印判は朱印で獅子）

正木憲時は里見氏の家臣。

③ （写真）「里見義継（後の義頼）印判状」天正 3 年（1575）12 月（印判は黒印で龍）

義継は里見義弘の子、梅王丸とは異母兄弟。最近実物が発見され、印判が朱ではなく黒印であったことが判明した。

里見家の内紛により、支配地域が違いため、ほぼ同時期にそれぞれの印判状を入手したも

のであろう。それぞれの印判に鳳凰、獅子、龍と特徴がある。比較のため、小田原北条氏の有名な虎の印判も同時に展示してある。

2. 湘南電鉄と県立金沢文庫

今回の展示のタイトルは「湘南電鉄と金沢文庫」となっているが、両者とも同じ昭和 5 年に開業したことにある。

湘南電鉄（湘南電気鉄道）は、今の京急の前身で、三浦半島を一周する路線の敷設を目的に大正時代に設立された会社。本線（西回り線）は横浜市内から逗子を経て三崎口を終点とする。第一支線（東回り線）は六浦荘から浦賀を経て初声村まで、そして 逗子から鎌倉までを第 2 支線として計画したが、東回り線のみが実現した。

関東大震災を乗り越え、昭和 5 年（1930）4 月 1 日 黄金町―浦賀、金沢八景―湘南逗子を開通させた。

また、県立金沢文庫は昭和 5 年 8 月に開館。8 日に記念式典、9 日に一日だけの一般公開を行い、3000 人が集まった。

京濱湘南電鉄のポスター（金沢文庫所蔵）で、称名寺と金沢文庫を宣伝している。

角田武夫氏の戦前の八景駅、文庫駅の絵を展示。文庫駅には、車輛工場と思われる大きな建物があるが、その前がプラットフォームになっていた。また、金沢山から谷津釜利谷方面を描いたなかに電車が1両で走っている。

昭和16年（1941）湘南電鉄と京濱電鉄は合併し「京浜電鉄」となり、昭和17年（1942）小田急電鉄等と合併し「東京急行電鉄」（大東急）となる。この時代の切符二枚が展示されている。昭和23年（1947）現在の「京浜急行電鉄」が発足した。

3. 楠山コレクション

楠山氏は金沢八景関連の収集家というイメージを持っていた。ここで鉄道資料関係の展示ということで、ちょっと不思議な気がした。今回改めて収集品を見ると、楠山氏は鉄道マニアの一面もお持ちになり、鉄道もお好きであったことが分かる。金沢八景から出発した収集が鉄道まで及んだものであろう。実際、鉄道の趣味の会に加入されていた。（日本交通趣味協会・会員証の展示もある）

以下、展示品の数が1200点もあるとのことなので、私に関心をもったものを中心に紹介したい。

湘南電鉄パンフレット 海水浴を誘うものが多い。金沢海水浴場（乙艦海岸）には、湘南電鉄直営の海の家があり、金沢八景駅からバスが運行されていた。海の家は、昭和5年は、「報知新聞社公園町営無料海水浴場の設備」だったが、昭和7年には、直営海の家になり、医師も看護婦もいるとの宣伝文句がある。海水浴のポスターの女性と子供の絵は、モダンである。

京濱電鉄のパンフレット

京濱電鉄は、明治32年（1899）川崎の六郷橋から大師を結んだ大師電気鉄道に始まる。京濱電気鉄道（京濱電鉄）と名を改め、明治38年

（1905）品川と神奈川を開通させた。

川崎大師と羽田穴守海水浴場などの参詣や海水浴を誘うパンフレットが多い。

湘南電鉄・京濱電鉄パンフレット

湘南電鉄と京濱電鉄とは、黄金町と横浜駅間を連絡自動車で繋がっていた。昭和6年（1931）には、湘南電鉄、京濱電鉄がそれぞれ延伸して、黄金町と横浜駅を結び、横浜駅で湘南電鉄と京濱電鉄は、同一ホームで乗り換えができるようになった。この時のパンフレットが展示されている。しかし、両社の軌道幅が違うので直通運転ができなかった。京濱電鉄が、湘南電鉄の標準軌にあわせ、狭軌から標準軌に変更したので、昭和8年より、乗り換えずにすむようになった。

パンフレットは、合併前から両社共同で三浦半島をメインに作成しているものが多い。また、各駅の記念スタンプも特色あるものも多い。

切符

戦前のものを含め、多数ある。切符は、金沢八景駅、金沢文庫駅、六浦駅等に駅ごとに整理されており、整理ホルダーも展示してある。切符は、趣味の会等で購入したものもあるとのこと。

特殊乗車券や入場券、定期券、車内補充券、ルトラカード、記念切符 周年記念乗車券、走行距離切符、新型車両切符等多彩なものが収集されている。

駅名が、谷津坂から能見台に変更になった時の「さようなら谷津坂—こんにちは能見台」と記載された駅名改称記念入場券や記念品の「爪切り」も展示されている。

今はない駅名の切符がある。学校裏、出村、キリンビール前等。

ビール好きには 気になる駅名「キリンビール前」。調べてみたら、山手にあったキリンビールは関東大震災で焼失し生麦に移ったが、京急はビール工場勤務者と工場に隣接する自社の分譲地の住

民の利便をはかるために、昭和7年(1932)に駅を新設した。戦時中には、ビールはぜいたく品との理由で、「ビール前」を切り離し「キリン」駅と改称した。終戦前に営業を停止し、戦後廃止された。(「京急沿線の不思議と謎」岡田直)

京浜急行関連資料

列車運行図表(ダイヤグラム)までである。どうやって入手したのだろうと思ったら、「鉄道友の会頒布会で手に入れたようです」との表示があった。京急の機関誌「なぎさ」の創刊号もある。

横浜市電・地下鉄切符

横浜の路面電車は、明治37年(1904)横浜電気鉄道(株)により、神奈川～大江橋間に開業。大正10年(1921)横浜市が買収して、横浜市電が誕生した。令和3年(2021)は、市営交通100周年。昭和47年に、市電は廃止、地下鉄が上大岡駅～伊勢佐木長者町駅間が開業した。地下鉄は今年(令和4年)で50年となる。

市電の回数券や市電廃止記念乗車券もある。金沢には、市電が通っていなかったのが、記念切符等が中心である。「さようならトロリーバス廃止記念乗車券」もある。

おわりに

鉄道開通150年記念とうたっているのに、鉄道関係、例えば湘南電鉄とか京急などの歴史についての展示を期待したが、それはあまりなかった。今回は、150年を契機に、楠山コレクションの鉄道関係を紹介したものであったが、それは想像以上に充実したものであった。

シーサイドライン、国鉄・JR切符、相鉄、江ノ電

シーサイドラインの一日乗車券やパンフレット類。国鉄の「省線」時代の切符、話題となった「愛国から幸福ゆき」の切符。相鉄ポケットカードや記念入場券。各社の記念切符やパンフレット類が多くある。

江ノ電は戦前からのパンフレット類が揃っている。鎌倉を知るために貴重なものだと思う。

戦争関連資料

慰問袋や千人針。軍艦進水式記念絵葉書、軍事郵便葉書等。

横須賀鎮守府長官は、金沢文庫開館の式典では、来賓の一番に名前が挙がっていた、とのこと。

駅弁の包み紙

崎陽軒のシウマイ弁当の包み紙が戦前のものを含め、並んでいる。戦後の包み紙には、横浜開港の恩人「井伊掃部頭直弼」の銅像が描かれている。その銅像は、戦前の横浜を代表する観光スポットだった、との指摘があった。

牛コレクション

楠山氏は獣医で、森永乳業に勤務。仕事関連で「牛」資料を集めていた。

2022 年度第 3 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.8.19 晴れ)

「鉄道開通150年記念湘南電鉄と県立金沢文庫― 楠山永雄コレクション鉄道資料 ―」

講師：山地 純氏

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	合計	アンケート(提出率%)
	男	37	7	44(47.8)	0	44	
	女	7	0	7(29.2)	0	7	
計		44	7	51(44.0)	0	51	40/44

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
22名	16名	2名	0名	0名

- ・京急を愛する者として、その歴史を知ることが出来て満足しました。興味深かった。
- ・地元のお話大変興味があり楽しく拝聴致しました。私が乗り始めた頃は湘南富岡でした。
- ・近年の生活地域の発展、変化を知ることが出来て貴重な話が聞けた。
- ・いつものように、分かりやすく、大変よく理解できました。
- ・富岡海水浴場が少し説明されていた。
- ・昔なつかしく思い出されました。
- ・湘南電鉄、初めて聞きました。第3セクター(横須賀)で有ったのでしょうか？
- ・切符一つから様々な事が分かるのが面白かった。金沢に住んで70年を越えるがなつかしいことばかり、湘南電鉄の名が入った建物も実見しているので楽しい。
- ・もっと長い時間欲しかった。
- ・興味あるスライドがとてもよかった、もっとゆっくり見られたら
- ・「山口文書」の解説は貴重であった。湘南電鉄、京急電鉄の話、おもしろかった。
- ・ひさしぶりの山地節は健在でした。
- ・湘南電鉄のことが良くわかった。
- ・楽しいお話でした。
- ・湘南電鉄とは初めて知ったことだったので大変おもしろかった。ポスター、ちらし、切符 etc とても興味深かった。
- ・身近な話題が大変良かった。
- ・山口家の文書の説明がきけて良かったです。もっと掘り下げてやってほしいです。(正木氏との関係とか詳しく！)
- ・楠山コレクションは過去2回見ているのでなじみがあって嬉しいテーマである。能見台に住んで40年近くになり、昔との比較で非常に為になる話だった。
- ・県立金沢文庫と京急がほぼ同時期に設立されて歩んできた経緯が分かり、地元の歴史として多いに参考になりました。山口家文書で半手のこと新ためて再認識した。

- ・子供の時から湘南電鉄に乗っており時代の変化については知っていますが、地方から移住した人にとっては良かったと思います。少し急ぎすぎた話でした。もう少しじっくりやっていただきたい。
- ・色々和我々が知らない、三浦半島付近と京浜(湘南)鉄道の関係が新たためて思い出されて懐かしかった。
- ・話が上手で良く判った。楽しい時間、情報多く理解できた。
- ・細かいところをスライドで拡大して見る事が出来、興味深かった。
- ・説明が良かった。
- ・子供の頃何となく見たような光景があり楽しかったです。
- ・今まで知らなかった資料も多く興味深かった。
- ・展示前の解説が良い。
- ・電鉄の歴史がわかっておもしろかった。
- ・変わったテーマで興味深かった。
- ・スライド多くわかりやすい。
- ・湘南と京浜で今の京浜急行になったのは知っていたが今回の内容が整理されていてよくわかった。昭和20年代から京急に乗っていたのでなつかしかった。
- ・私の関心の外

②山地講師に希望する講演テーマについて

- ・称名寺文書
- ・中世のおはなしして頂きたいです
- ・並木の埋め立て成り立ち。
- ・鎌倉時代の歴史について講座があったら是非お願いしたいです。
- ・金沢区の小名(字)について(特に富岡地区)

③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
13名	23名	0名	0名

※チェック無し：4名

- ・大変良い機会を与えてもらいました。
- ・暑い日ですが、良かった。
- ・山口家の資料配付がなかった。(急に配布で間に合わなかったのか)
- ・コロナウイルス感染症対策も大変な中ありがとうございました。
- ・Very Good
- ・ていねいなご説明頂きありがとうございました。
- ・いつもお世話になります。
- ・暑い中で準備ありがとうございます。
- ・大変良い機会を与えてもらいました。
- ・良くわからない。
- ・いつもごくろう様

- ・資料が足りなかったのに気付くのが少し遅かったのでは残念ですが。受付が地下とはわからなかったです、上に表示があるとうれしい。
- ・いつもお世話様です。
- ・まったく京急にのって毎日利用しているのに知りませんでした。とても良かったです。

④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・外部の見学会を多くしてほしいです。たとえばバスツアーなど。
- ・種々のテーマを取り上げありがとうございます。

運営委員代表の意見・感想

今回は、横浜歴史博物館で開催されている特別展『みんなでつなげる鉄道 150年 ―鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり―』に連携した県立金沢文庫で開催されている『「鉄道開通150年記念湘南電鉄と県立金沢文庫―楠山永雄コレクション鉄道資料―」』の解説と展示会場での説明でした。

細かい展示物が多いとのことで、切符など展示品を拡大スライドで説明いただき、大変わかりやすく良かった。戦時中の大東急時代の切符など多くの記念切符、いろいろなパンフレット等の説明も楽しいものでした。

また、湘南電鉄と県立金沢文庫の設立時期、湘南電鉄、京濱電鉄、京浜急行の歴史、路線変遷(歴史)などの説明も分りやすく理解できた。

また昭和12年5月の角田武夫画での金沢文庫駅付近は何とも寂しいことがわかり驚きました。きっと金沢八景駅の方が賑やかであったのではと思い、昭和12年9月の金沢八景駅前の角田武夫画を見直したところその通りでした。

山口家文書等での翻刻、半手の文書については素晴らしいものが寄贈されて再認識できた。

それにしても、楠山永雄氏のコレクションが多岐に渡っていることがよくわかりました。

楠山コレクション、角田氏のスケッチなど多くのものが県立金沢文庫にあることはすごいことと思った。

“わ”の会代表 江口正彦

2022 年度第 4 回学習会

武州金沢藩米倉家と幕末維新

会報編集委員 佐藤和広

開催日：2022 年 9 月 10 日（土）9：30～12：00

会 場：横浜市立大学本校舎 304 教室

講 師：横浜市歴史博物館 主任学芸員 小林 紀子氏

米倉家の概要

大名種別・・・譜代（関ヶ原の戦い以前に徳川氏に臣従した者）

大名の格・・・陣屋（国主、準国主、城主、準城主、陣屋、居館と格が下がる）

石 高・・・1 万 2000 石

控えの間・・・菊間詰（無城譜代大名、2 万石以下で陣屋、居館の譜代大名や一部の旗本で、大名の席次としては最下位）

爵 位・・・子爵（5 爵の第 4 位、5 万石未満の旧藩主）

家 紋・・・米倉宗家の家紋「隅切り唐花」

出自

米倉氏は清和源氏・甲斐源氏の一族。武田系図によれば、武田清光（甲斐源氏 3 代当主）の子義行が奈古姓を称し、孫の弥太郎信継がはじめて平安時代後期に甲斐国八代郡小石和筋米倉村に居住して、姓を米倉に改めたのが始まりとされます。代々甲斐源氏の一族甘利氏に仕えました。

戦国期に『甲陽軍鑑』によれば信継の子孫重継は武田信玄に仕え、信濃侵攻において甘利氏の旗下で活躍し足軽大将になりました。

重継は長篠の戦いにおいて戦死します。重継の子忠継は武川衆の隊長となり、武田氏の滅亡の時は武田遺臣の多くがそうであったように忠継も家康に従いました。

昌尹の祖父永時（清継）は徳川氏の関東入封に従い、大住郡（現秦野市）堀山下に 200 石を与えられました（寛政重修諸家譜）。

『風土記稿』同村の条には「領主米倉氏屋敷跡」が記されています。同地の蔵林寺は昌尹が先祖供養のため本堂庫裏を建立して中興した寺と伝え、

初代から 15 代までの当主一族の墓石 20 基があり、昌純と昌尹が埋葬されています。

武川衆 甲斐国の辺境武士団。

甲斐源氏の武田氏支流である甲斐一条氏に連なる一族で、戦国期には武田家臣化し国境防衛などを行いました。「武川」は武川筋を意味する地理的呼称で、甲斐北西部をさします。

中世甲斐国では特定地域に土着する「～衆」と呼ばれる辺境武士団が存在し戦国期には武田家臣化していますが、武川衆は津金衆や九一色衆とともにその代表的存在でした。

武田氏滅亡後、『寛永伝』によれば、米倉主計助が武川衆を家康方に味方させるべく奔走した功績で家康から感状を受けています。

江戸時代には武川衆の大部分は甲府勤番などの徳川家旗本となりました。

徳川綱吉の「側用人」として知られる柳沢吉保は武川衆である柳沢氏の子孫。

米倉家の未整理文書の中に昌純の臨終間際にやり取りされたと思われる柳沢吉保の署名がある書付が発見されました。昌尹登用や忠仰の養子縁組には、昌純と吉保の先祖が同じ軍団に属していた親交が一役買った可能性も？

金沢藩

江戸時代の横浜は江戸に近いために、領地の多くは幕府や旗本のものでした。そんな中で「金沢藩」は、横浜地域に陣屋を構えた唯一の大名です。領地は武蔵国埼玉郡 6%、久良岐郡 9%、相模国大住郡 23%、下野国都賀郡 28%、安蘇郡 34%。米倉昌尹（まさただ）は 1637 年 400 石の米倉昌純の長男として誕生。1645 年徳川家光に

拝謁し御小姓となります。徳川綱吉のもとでは、1696年に若年寄（旗本・御家人の支配・監督）に任じられ、それにより1万石を与えられたことで大名として諸侯に列し、武蔵金沢藩主となりました。1699年に5000石加増され、無嗣改易で廃藩となっていた下野国皆川藩に1万5000石で皆川藩初代藩主となります。

金沢に移封されるまでの間は定府大名（参勤交代を行わず、江戸に定住する大名）皆川藩2代藩主米倉昌明は、弟米倉昌仲に3000石を分与したため、1万2000石となりました。

1722年に武蔵国金沢藩へ移封となり、陣屋を金沢の社家分村に移しました。

歴代当主

米倉政継の代までは「継」の字が、政継が昌純に改名して後は一時期を除き「昌」の字が通字として用いられました。

米倉 忠仰（ただすけ）

武蔵国金沢藩初代藩主。官位は従五位下・丹後守、主計頭（税収を把握・監査）。

柳沢吉保の6男、1710年米倉昌照（皆川藩3代）の養子となり、1712年に昌照が死去したために跡を継ぐ。1716年徳川吉宗に拝謁。1735年出仕停止を命じられる。病床にあった忠仰は、長男里矩の年齢を3歳から9歳に修正する報告を行った。実は虚偽の報告であり、忠仰死後に判明することになる。幕府はこれを咎める。同年4月8日死去。享年30。

跡を里矩が継ぐが生前に忠仰が里矩の年齢を詐称していたことから、お家騒動が起こった。

米倉 里矩（さとのり）

金沢藩2代藩主。1733年米倉忠仰の長男として誕生。1735年父の死去により家督を継ぐ。しかし、里矩の年齢を9歳と詐称していたことが判明したため、幕府は重臣らを伯父柳沢吉里に預けるなどの処罰を行った。年齢詐称は里矩があまりに幼少であったことから、家督相続を幕府に認められないことを恐れたためと考えられる。1746年徳川家重に御目見したが、1749年に17歳で死去した。子が無かったため、養子昌晴が跡を継いだ。

米倉 昌晴（まさはる）

金沢藩3代藩主。官位は従五位下・丹後守、若年寄。

1728年、分家で3000石の旗本である米倉昌

倫の次男として誕生。1749年、里矩が子無くして早世したため、その養子となって跡を継ぐ。同年5月に徳川家重に御目見。

1764年大番頭（江戸城警護および江戸市中の警備）となり、1776年奏者番（大名、旗本などが将軍に拝謁する時、その取次、進物の披露などをつかさどる）、同年4月に日光祭礼奉行、1777年若年寄など要職を歴任した。しかし1784年同じ若年寄である田沼意知が暗殺されると、連座により謹慎処分となった。同年5月に許されて西の丸御付となる。1785年病を得て若年寄を辞任しようとしたが、許されずに在職中のまま死去した。享年58。

跡を次男・昌賢が継ぐ。

米倉 昌賢（まさかた）

金沢藩4代藩主。官位は従五位下・長門守。

1785年父が死去したため、翌年に家督を継ぐ。1787年大坂加番（江戸幕府の職名、一年交替で大坂城の警備）、1789年半蔵門番、大番頭となるが、1793年に病を理由に辞任し、1798年死去。享年40。

跡を婿養子・昌由が継いだ。

米倉 昌由（まさよし）

金沢藩5代藩主。官位は従五位下・丹後守、主計頭。

1777年3000石の旗本である米倉昌盈の次男として誕生。1798年米倉昌賢が死去すると、の婿養子として跡を継ぎ、9月に徳川家斉に御目見。そして馬場先門番、半蔵口門番、日光祭礼奉行、一橋門番などを歴任したが、1803年病気を理由に養子・昌俊に家督を譲って隠居した。1816年死去。享年40。

米倉 昌俊（まさのり）

金沢藩6代藩主。官位は従五位下・丹後守。

1784年、肥前国唐津藩2代藩主・水野忠鼎の9男として誕生。1803年米倉昌由の養子となり、5月に徳川家斉に御目見。6月に養父が病気により隠居したため家督を継ぐ。

日光祭礼奉行、半蔵口門番、田安門番、馬場先門番、大坂加番などを歴任するが、1812年、死去。享年29。実子は無く、養子・昌寿が跡を継いだ。

米倉 昌寿（まさなが）

金沢藩7代藩主。官位は従五位下・丹後守。

1793年丹波国福知山藩8代藩主・朽木昌綱の3男として誕生。1812年米倉昌俊が死去したため、

その養子として家督を継ぐ。同年6月徳川家斉に御目見。一橋門番や馬場先門番、和田倉門番、田安門番、竹橋門番などを歴任し、1836年に大坂京橋口定番となるが、1838年に不手際を起こして処罰されている。1857年、奏者番に就任する。1860年6男・昌言に家督を譲って隠居。1863年死去。享年71。

米倉 昌言（まさこと）

金沢藩8代藩主。官位は従五位下・下野守、丹後守。

1837年米倉昌寿の6男として誕生した。1858年徳川家定に御目見。1860年父が病気を理由に隠居したため、その跡を継ぐ。幕末の動乱期の中では佐幕派として行動し、田安門番や日光祭礼奉行を務めた後の1864年大番頭を務めた。第一次第二次長州征討にも参陣。1868年の戊辰戦争では新政府に恭順。1869年版籍奉還で知藩事、1871年廃藩置県で免官となり、1884年子爵を叙爵。

1909年死去。享年73。

金沢藩の幕末維新期の動向

1846年、アメリカビッドル艦隊（2隻）来航。浦賀奉行所より海防指令、金沢藩士189名平根山下（千代ヶ崎）着陣。

ビッドルは正式な使節ではなく、日本との外交折衝を開始するための「願書」を提出。

翌々日ビッドル退帆、浦賀引き払い帰陣。

1853年、ペリー艦隊来航、三崎沖に異国船が見えたため、家中一同「御殿」に詰め出張用意。乙艦浜沖1里来る。藩士14名乙艦浜御陣所へ。異国船の小船が夏島、野島、弁天之鼻まで来る。村人たちは異国船見物。

1864、1866年、2度の長州征伐に参陣、5000両弱の資金のうち不足分を領地の村々から御用金として徴収。

1867年11月、出流山（いずるさん）事件、薩摩藩邸を活動拠点とする浪士が中心となって、下野国出流山にて拳兵するが、関東取締出役や近在諸藩によって鎮圧された事件。事件の起きた永野村は金沢藩領、金沢藩は浪士たちの屯集を幕府に注進し拳兵参加者の追捕を行う。

横須賀製鉄所の警護、横浜取締方を務め、浦賀を監視して異国船の到来を報告。

1868年2月18日、新政府へ恭順

同月、新政府より藤沢宿から神奈川宿の「兵食取計・宿々警衛・人馬継立世話向」を命じられる。**藩主昌言の御直書**（大名など身分の高い人が家臣などに主人名儀で発行する文書）

慶応4年5月、藩士たちに「心痛の時勢」米倉家の存亡にかかわる「当今の形勢」に対し、どのように対応したらよいか遠慮なく意見を求めたい。また「世柄悪敷」「村々騒立」（出流山事件や野州表騒敷＝野州領で百姓が世直し屯集）、「納物」も滞り思うようにならないこともあるだろうが一致して励みたい。これについても忌憚のない意見を求めたいとの御直書が示されました。

この後、御直書への回答ともいえるような政策を実施、または強化した。

①学校取立

明允館（めいいんかん）の設立、泥牛庵において学問所御開き。佐藤忠蔵・清水藤蔵・相川文五郎を金沢領学校御取建御用掛仰せつける。

②藩の人材登用

佐藤忠庵、都築郡久保村（緑区）の百姓。元は江戸在住の医師、慶応3年藩士に登用。宇田節之助、安房郡真倉村（館山）の百姓。江戸で海保漁村に学ぶ、慶応3年藩士に登用。宮川弁治、三河国設楽郡（豊田市）の医師。奥勤めの宮川たつの養子となり藩士となる。廃藩後は瀬戸神社宮司。

金沢領でも「会議方」を創設し、能力のある百姓を任命。

③武備の充実

西洋式銃隊調練の導入と注力、調練は英国式。農兵も取り立ては始める。さまざまな「文武芸術」の中で銃隊調練を厚く心がけるようにとの達し。

明治2年、明治天皇御東幸、戸塚宿へ銃隊御警衛人数差出命じられる。「神奈川県御守衛」を明治政府から命じられ、原則1か月交代で藩士を派遣。剣術や槍術の稽古も盛んに行う。

明治3年、兵式がフランス式となる、

「塩浜」にて調練。

明治2年の版籍奉還により、金沢藩を加賀金沢藩との同名回避のため金沢藩を六浦藩と改称。明治4年の廃藩置県により六浦県となり、同年管轄区域のうち相模川以東が神奈川県に、相模川以西が足柄県に統合されました。

雑感

横浜市域唯一の大名、藩となればやはりそれなりの城郭があったらなーと、つついないものねだりをしてしまう。夢想するに権現山の頂上に天守閣、三層くらいでいいかな。彦根城とまではいかなくてもせめて犬山城くらいは欲しい。勿論 1 万 2000 石では城は持てないのだがそこは夢想。上行寺東遺跡と御伊勢山には曲輪、横浜市立大学裏の山は崖が急だから要所に土塁を掘れば少しの

期間は籠城出来るだろう。水の手があるか、笠森稲荷神社の横の崖からしほり水が滲みだしていた。それを溜めればなんとかなるだろう。

2022 年度第 4 回学習会アンケート集計

“わ”の会運営委員会(2022.9.10 晴れ)

「武州金沢藩米倉家と幕末維新」

講師：小林 紀子 氏

出席者		一般会員	委員	計(出席率%)	ビジター	合計	アンケート(提出率%)
	男	56	7	63(68.5)	0	63	
	女	16	0	16(66.7)	0	16	
計		72	7	79(68.1)	0	79	51(70.8) 51/72

①講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった	チェック無し
33名	17名	1名	0名	0名

- ・分かりやすい、ていねいな説明でした。資料も重要な部分は A3 版で添付されていて分かりやすかったです。
- ・判り易く説明いただいた。金沢への興味増大。
- ・資料が充実しており地元の大名の経緯が良く理解できた。武川衆が徳川家康以下に評価された事、新たに認識出来た。メリハリの効いた講義の進め方。
- ・米倉家の歴史が学べました。ペリー艦隊来航時、幕末、明治維新時の米倉家の動向が興味深いものでした。
- ・大変わかりやすかった。
- ・丁寧かつ話のテンポが小生には理解し易いスピードで頭に良く入りました。古文書を詳しく読んでいただき由緒書の重要性、後の資料との照合で歴史家の仕事が理解できた。
- ・2 時間半にわたり、ごていねいな解説頂き大変ありがとうございました。
- ・米倉家のルーツなどを知ることが出来、少しなじみが薄かった部分が埋まり大変良かった。
- ・金沢藩については、中々書店等でも図書等がなく、地元の歴史を築いて来た方々の業を知る貴重な機会を頂くことが出来ました。
- ・米倉藩の歴史と金沢の地との関わりが良く分かった。
- ・米倉家の「由緒書」、を詳しく説明して頂き、今迄知っていたつもりの”米倉家”の幕末期迄を詳しく～詳しく知る事が出来ました。
- ・地元の大名米倉家の歴史を知ることが出来大変興味深かったです。地図も地元でもあり、理解しやすかったです。
- ・明治の世に戻り、充実した時間を過ごさせていただきました。明治館での考え方は村民 or 藩士？ 財政改革は出来たのでしょうか？
- ・説明内容は分かり易かったが、少々スピードが早くついていくのが大変だった。
- ・わかりやすく、資料と共にくわしく教えていただきました。米倉家については、六浦の学校に勤務していた折りに金沢 8 代の昌尹氏だと思いますが、明治の世になり地域に残る身分の差別の解消のため六浦小の教師の願いに応じ、自分の子女と貧しい家の子を隣の席にしたという話が伝わっていて親しみを持っていました。

た。米倉氏について学習できて良かったです。

- ・研究成果十分につたわった。話の展開良い。お声も明確で理解できた。
- ・米倉氏の存続に、旧武田家臣故か大変苦労があった。養子縁組による家の相続や徳川家に気を使い。
- ・詳細な資料の提示と解説の明確さもあり、よく理解出来た。
- ・身近な米倉藩の話で興味深かった。
- ・説明に無駄がなく分かりやすい。金沢藩がなぜ幕府俵りではなく、誰さま向きにしたかを知りたかった。
- ・分かりやすかった。
- ・金澤藩の詳細がよく理解出来た。
- ・明確な自信を持った説明が大変良かった。
- ・歯切れの良い話し方で大変聞き易く、米倉家の経過他が非常に解り易かった。
- ・米倉家の歴史が理解できて大変良かった。
- ・資料も豊富で、ていねいな説明に感謝、感謝です。私に取っては、はじめての内容だったので、興味を持ちました。更に勉強してみたいと思います。
- ・資料がまとまってお分かりやすかった。
- ・分かり易い講演だった。資料もくわしくよかった。
- ・一幅の大河ドラマをお聞きする感じで素晴らしい講演でした。
- ・身近の歴史に接して興味示す。
- ・資料に基づく説明には説得力があったが古文書は素人には「あき」がくるので、興味ある話を交えながら話してもらおうと、もっとよかったと思う。
- ・最近の研究成果をきけた。
- ・話し方が上手、内容が細かすぎですが、学術上仕方ない事かも……
- ・受講する受け手の知識が不足しているので、どこまで理解出来たか不明です。講演は良かった。
- ・金沢六浦生まれですが、米倉家の話は 10 年前には知らなかったが「わの会」での学習などで知り、昨年歴史博物館での企画展も見学して、今日の講演でより一層理解出来た。しかしながら大正生まれの父の話で「清左衛門はおらんのか」と米倉丹後の守が訪ねてきた事があると言っていたようになっているのは、清左衛門は私の 4 代前の先祖であり当時(今でも)六浦町の大道の近くに住んでいた。そんなことはなかったと思うが、父にとっては米倉丹後の守は身近であったのだとなつかしく思った。
- ・やはり地元の事を知れて良かった。
- ・説明が大変聞きやすかった。
- ・米倉家の状況が良く分かった。
- ・金沢藩の話、興味深くきけました。陣屋内に神社があったようだが、寺はなかったのだろうか、藩士のその後はどうなったのか知りたい。
- ・武州金沢藩をもっと社会に PR したら良いと思う。

②小林講師に希望する講演テーマについて

- ・藩と藩領の村々の実態の詳細について、飛び地での 1 万石大名の財政(苦しさ)及び政治(政務)の仕組みについて
- ・明治以後の今後の研究について
- ・佐久間象山と横浜。 黒船、開国 社会混乱

- ・ 戊辰の横浜と金沢
- ・ 戊辰戦争時の金沢関わりについて
- ・ 先生からお話のあった「昌純」に関して調べられて、まだまだ出てくるだろうと思われる事が「“できたあ〜”」となりましたら、お聞かせ頂きたいです。
- ・ 江川太郎左衛門について ・ 豊島昭重について
- ・ 佐久間象山と横浜について
- ・ 米倉藩末代についての調査が新しく出来ましたらそのテーマで話を聞きたい
- ・ 今後の研究についても講演いただきたい。
- ・ 神奈川は歴史の宝庫であり聞いた所の地名に関して講義頂ければ
- ・ 10年と云わず、5年先ほどでお願いしたい。
- ・ 金沢区の歴史(北条)に講演
- ・ 近世の歴史から学習したい。
- ・ 黒船・開国……等

③学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
17名	28名	2名	0名

※チェック無し：4名

- ・ いつもだが、道順案内や会場内などキッチリ運営されている。感謝
- ・ 案内の人含めて要所〵〵に配置されていた。司会もメリハリが効いていた。サークル活動が少しうるさかった。
- ・ 幕末にかけての藩主の「日記」により国の政策などの動きが日々細かく記載されているのが当時の様子が興味深かった。
- ・ いつもながらスムーズな進行をありがとうございました。
- ・ いつもお世話様です。
- ・ ご苦労様でした。
- ・ 毎回の準備など感謝しています。ご苦労さまです。
- ・ 講堂の中が多人数のせいか熱く感じた。会場の都合上しかたないことだとは推察します。
- ・ 暑い中案内等お疲れ様でした。ありがとうございます。
- ・ 会場に冷房があればもっと良かった。
- ・ いつもながら素晴らしい運営で感服しています。
- ・ 講師と何となく親しめる様な感じを作り出していた。
- ・ 映像が不鮮明でもう少しは画像がシャープであれば良かった。
- ・ 打ち合わせが良く運営されている。
- ・ いつもご苦労様、会場への案内ありがとう。
- ・ いつもありがとう。

④”わ”の会について、何でもお書きください。

- ・いつもありがとうございます。
- ・いつもお世話様です。
- ・いつもいろいろな講座の企画、運営ありがとうございます。
- ・大変ご苦労様です。
- ・御努力感謝
- ・ご苦労様でした。古文書の読み下しの知識を学びたい。
- ・いつもありがとうございます。

運営委員代表の意見・感想

今回は、昨年横浜歴史博物館で開催された企画展『横浜の大名 一米倉家の幕末・明治一』の開催を知り、米倉家は武州金沢藩/六浦藩の藩主の米倉家に関するものでしたので、すぐに展示担当者を紹介していただき“わ”の会での講演を企画展開催前にお願ひしました。その担当者が今回の講師小林紀子氏です。小林さんには、16年前に『慶応4年の武州金沢藩』というテーマで講演していただいていたようです。前回と似たような講演ですが、今回は新たに見つかった荻原文書、藩の「日記」や米倉家子孫所有の初公開資料など新しい資料を基に講演させていただきますと力強い説明でした。

講演は、武州金沢藩の概要、大名米倉家の系譜、武州金沢藩の幕末、「日記」に記された武州金沢藩の明治一いくつかのトピックスから分けての説明で、スライド・添付資料・レジュメを使い分けたテンポよい説明で大変分かり易かった。

目玉である、藩の目付の「日記」(公務日誌)の記録はすごい資料。昔の人はこのような記録をとり、長い間残っていることは当時のことが解明される貴重な資料だと再認識しました。

特別展で展示されていた、米倉信継・重継・昌尹の3人の藩祖を神格化した「三侯大明神」については、話はあったが実体が分からなかったもので、今回の調査で見つかったものなので、時間があればもう少し詳しい説明を聞きたかった。

最後に、地元に関連した講演でしたので親しみを持って聞けました。これからも研究は続くそうなので、さらなる新しいお話をさせていただきたいです。

“わ”の会代表 江口正彦

『寺社を巡る会』活動記録

令和4年度第3回～第5回

令和4年度

第3回 畠山・和田・安達ゆかりの地を歩く

開催日：令和4年7月7日（木）

コース：鎌倉駅西口～琵琶橋～浜の大鳥居跡～一の鳥居～畠山重保墓～和田塚
～甘縄神明神社（安達盛長邸跡）（解散）

参加者：28名

台風を心配したが熱帯低気圧となり、曇り空のなかで、むしろ街歩きには適した天気となった。

出発前に鎌倉ガイド協会から、「旧ソヴィエト連邦領事館跡を通る。そこは、ソヴィエト連邦崩壊のとき、海外資産はすべてロシアが引き継ぐことに、ウクライナが反対したため、ロシアへの名義の変更登記が出来ていない。うかつなことを言うと外交問題となるので、現地では、話ができない」と、重々しく出発前に話があった。そんな問題があると初めて知った。

その後、鎌倉駅西口時計台広場から御成通りに行く。早速に、横道の奥の建物は、最近鎌倉に増えたIT企業の従業員の共同食堂との説明があり。地元のガイドさんならではの情報だった。

若宮大路の「下馬」の交差点に着く。下馬は文字通り馬を下りるところ。若宮大路を横切るときも、馬を下りなくてはいけないため、昔は、上、中、下の下馬があり、ここは下の下馬。

次は、若宮大路の歩道にある「琵琶橋」。もともと弁財天があり、その持っていた琵琶から、あるいは曲がって道が琵琶に似ていた等から、二の鳥居から一の鳥居までを「琵琶小路」と呼んでいた。

若宮大路をさらに海にむかっていくと「浜の大鳥居跡」がある。平成2年（1990）に、芯とその周りに木を寄せ集めた直径1.6m程の柱の根元が発見された。天文23年（1554）、小田原北条氏の氏綱の時代にできたようである。寄木造りの鳥居があることは、私にとって新しい発

見だった。

さらに海よりに、「一の鳥居」がある。今の鳥居は、二代将軍徳川秀忠夫人の崇源院の発願により、孫の四代将軍徳川家綱が寛文8年（1668）に完成させ、寄進した。高さ8.5m、鳥居の一番上の横石の長さが約13mある。関東大震災のときに倒れたが、昭和12年（1937）修復。

一の鳥居のそばに、鎌倉時代の武将「畠山六郎重保の墓」と伝えられている宝篋印塔がある。明德四年（1393）と刻まれ、高さが3.4mもある。畠山重忠と息子の重保が殺された「畠山重忠の乱」の要因は3つとガイドさんの説明。「北条時政と牧の方の息子・政範が京で急死したことについて重保に責任があると牧の方が一方的に敵視。時政の女婿である平賀朝雅が京で酒宴の場で重保と口論。時政は武蔵の国の掌握を狙い、有力武将である畠山氏を滅ぼし北条氏が取って変わるという意図。」



(畠山重保の墓/畠山重保屋敷跡碑)

「旧ソヴィエト連邦領事館跡」の脇を通った。かなり広い敷地に、ひっそりと建物が建っていた。

和田塚の前の道は、明治25年(1892)海水浴のお客目当てに地元の人が道路整備したものの。その時、埴輪や土器の破片、多数の人骨が掘り出された。人骨は和田合戦で敗れた和田義盛一族のものと言われ「和田一族戦没地」の碑があるが、直接は関係無いようである。この辺りは古墳群が存在していたようだ。和田義盛は、建保元年(1213)北条氏の挑発にのり拳兵、戦に破れ一族は滅亡。



(和田塚)

和田塚の前の「鎌倉彫工芸館」で見学、トイレ休憩。若宮大路沿いの「鎌倉彫会館」とは、組合が違うようだ。この頃に、天気が回復し、暑くなってきた。

最後に、「安達盛長邸址」といわれる甘縄神明神社に着く。奈良時代に、豪族の染谷太郎太夫時忠が建てた鎌倉で一番古い神社。「北条時宗公産湯の井」がある。時宗は安達の娘を母としていることから生まれた伝説であろう。安達一族は「霜月騒動」によって滅びる。なお、安達盛長邸の場所はここではなく、鎌倉歴史文化交流館が建つ一帯であったという説が最近では有力である、とのこと。



(甘縄神明神社)

甘縄神明神社で解散、そのあと裏道を通り、長谷駅へ。

今回は畠山・和田・安達のゆかりの地を歩いた。畠山重忠・重保については、釜利谷では東光禅寺を中心に伝説が多い。六浦の大道小学校脇の谷戸は和田の館跡ではないかと言われている。安達泰盛の女婿金沢頭時は、「霜月騒動」で失脚。いずれも金沢と縁がある人々である。金沢が鎌倉の一部として繋がっている、と改めて感じた。

(松崎 寛 記)

第5回 文覚上人・義明・政子を偲ぶ

開催日：令和4年9月1日(木)

コース：光明寺バス停(集合)～ 補陀洛寺(昇堂・法話)～ 實相寺～ 来迎寺～ 安養院～ JR 鎌倉駅(解散)

参加者：26名

当日は晴れの予報であったが、集合場所に向う途中土砂降りで、午前中の天気が気になる中の探訪出発であった。

最初に訪れた補陀洛寺では会員の方の御尽力

により昇堂、法話を拝聴する事ができた。

補陀洛寺は頼朝の打倒平家の祈願所として文覚上人を開山として建立され、本尊は十一面観音菩薩である。竜巻に度々襲われ竜巻寺とも言われる。本堂には多くの仏像・文化財がある。伝行基作の薬師如来、脇侍には伝運慶作日光・月光菩薩、平安時代作不動明王像、文覚の筆による頼朝の位牌、頼朝自作と言われる自身の像、そして1185年平家滅亡の際、総帥の平宗盛が最後まで持っていたと言う「九方八千軍神」と書かれた「平家の赤旗」が有り、合戦の時多くの軍神に祈願していた事が分かる。「九方八千」は「くまばち」とも読むことがあるとのこと。毎年鎌倉まつりの頃公開されるそうである。



(補陀洛寺(真言宗大覚寺派))

続いて實相寺に向う。實相寺の法華堂の地は日本三大仇討の一つで、曾我兄弟の仇討で父の仇として討たれた工藤祐経の邸跡である。日蓮宗で開山は日蓮上人の一番弟子である日昭上人で工藤祐経の外孫に当たる。本尊は南無妙法蓮華経の題目の書かれた塔を中心に釈迦・多宝如来の両尊、四菩薩を祀る一塔両尊四土である。

次に訪れたのは来迎寺。元は頼朝が三浦義明

(三浦義村・和田義盛の祖父)の菩提を弔う為に建立した真言宗の能蔵寺であったが、開山の音阿上人が時宗に帰依した為改宗し来迎寺となった。境内には義明と孫の多々良重春の五輪塔、そして三浦一族の100余基の五輪塔が並んでいる。



(来迎寺境内 三浦義明の家来の墓)

最後に向ったのは北条政子ゆかりの安養院。政子は頼朝の冥福を祈って長楽寺を建立したが焼失、現在の地にあった善導寺も焼失し二寺を併合し政子の法名である安養院を院号とした。本堂裏には政子の墓(供養塔)がある。



(安養院本堂)

探訪中は雨も降らず大河ドラマも交えての話もあり、楽しく探訪する事ができた。

雨は降らなかったが、どんどん暑くなって最後の方は疲れが出てきているようだった。度々水分補給の声かけをするようにした方が良く思う。

(熊谷 滋子 記)

第6回 20周年記念講演会 「鎌倉草創 修羅の大河を行く」

～頼朝、政子、そして義時の軌跡～

開催日：令和4年9月9日（金）

講師：相澤孝之氏（鎌倉ガイド協会会員）

開催場所：金沢公会堂 多目的室

参加者：40名

「寺社を巡る会」は平成14年(2002)5月に15名の会員で発足した。平成23年(2011)には10周年、平成29年(2017)には15周年を迎え、それぞれの記念行事を実施した。令和3年度(2021)で20年を経過し、この度20周年記念行事のひとつとして、相澤孝之（鎌倉ガイド協会）講師をお招きして、NHK大河ドラマが放映されて話題となっている「鎌倉殿の13人」に関連した講演会を開催した。

平治の乱に敗れ、源頼朝は伊豆に配流。北条家の支援のもと、平家打倒の兵を挙げるが「石橋山の戦い」に敗れて安房に渡海。上総介広常らの援軍を得て、鎌倉に入り本拠とする。以後「鎌倉殿」と呼ばれる。領地を安堵された御家人は、その御恩を報いるため命をかけて奉公した。

北条時政の嫡男北条宗時が目指したのは坂東武者の世にし、そのトップに北条が立つ事だった。しかし宗時は石橋山で戦死し、義時は否応なしに鎌倉政権のために働くことになる。

頼朝死去(1199)後、北条氏と比企氏による頼家の後継者を巡る争いが表面化。時政は能員を自邸に招き殺害。頼家は伊豆修善寺に幽閉、後に暗殺された。

時政と牧の方の強引なやり方に対し、御家人達の中に蟠りが広がる。義時と政子は実朝を手中に入れ、時政に引退を言い渡す。御家人達は皆、義時と政子を支持し、時政は伊豆へ。執権義時と尼御台の体制になった。また実朝は「将軍親裁」目指して朝廷との関係を安定させる。

しかし、建暦3年(1213)2月、比企氏に近い泉親衡が義時に謀反を企てる。義盛の子や甥の加

担が発覚。両者間の火種となる。数々の因縁の末、義盛は同年5月に蜂起して、2日間にわたる鎌倉市街地での戦闘で、義盛は力尽き、和田氏は滅亡した。鎌倉初期最大の武力抗争「和田合戦」であった。

実朝暗殺事件(1219)は謎が多い。義時は事前に知っていたことが伺えるが、北条氏にとって大事な将軍で守るべき立場のはず。三浦義村は公暁の乳母夫の立場であるが公暁を討った。

承久の乱(1221)では政子の御家人を鼓舞する演説の効果は絶大であった。義時は直ちに出撃を決断し、後鳥羽上皇軍に勝利、幕府の力はさらに強まった。尼御台政子と執権義時は時代の支持を得た姉弟であったと言える。

また「子」を付ける名前は、皇后・中宮・内親王の朝廷のトップクラスの女性のみだった。「政子」は1218年（頼朝の死後18年後）に従三位を賜った際に朝廷より賜った名前である、との説明は興味深く聞いた。

限られた時間の中で、頼朝・政子・義時の話しをわかりやすくまとめていただいた。

今回の20周年記念行事は、新型コロナの感染が終息しない中で開催した。参加者には多少不安はあったと思われるが40名もの参加者があった。

今回、相澤講師に快諾して頂き、テーマに合わせて参考になるお話をお聞きでき、とても勉強になった。さらに、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」をより楽しむことが出来るだろう。

（金久保 常二 記）

古文書を読む会 学習記録

第一学習 参勤交代（松平春嶽）昨夢記事 更級日記		
開催日時 会場 テーマ	学 習 内 容	参加者
2022年 7月14日 (木) 金沢公会堂 第1会議室 参勤交代 松平春嶽 昨夢記事⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・天下の形勢を一変し必戦を期する我が私策は紙上の空論虚策では決して之無く、列侯も同様と願う。 ・大小侯伯を先陣あらしめ、ご奉公が意義あるよう仕向けなければ現在のようになっていたらくでは前途多難である。 ・日本中が必戦の覚悟を持つよう公辺におかせられても必戦の覚悟を示すことが肝要である。 ・日本へ異船渡来の節、取り扱い方がまちまちでは信義成り立たず、しっかりした対応方をお示し願いたい。 ・外国との条約に差別があってはならない。万国一般に通用する定制でなくてはならない。 以上のほか講師より参勤交代について交代の時期、お伴の人数、お目見え登城の仕組み、参勤交代にかかる経費、交代に際しての道中トラブルなどの解説があった。	11名
2022年 8月10日 (水) 金沢公会堂 第2会議室 参勤交代 松平春嶽 昨夢記事⑪	江戸城参勤による将軍拝謁の大名等はその石高、官位、役職等により格付けされ、大名家にとって拝謁の席次・序列が家格を示すものとしてその維持・向上に最大限の努力をした。拝謁は「黒書院」で行われ、詰の間トップの「溜間」や「大広間席」大名のお目見えが済むと「帝鑑の間詰」（主に譜代大名）・「柳の間詰」（主に外様大名）の順番となり徐々に家格が下った。 拝謁は将軍が「それえ！」と声をかけると御用番の老中が「誰々は有難く申しております」と代理返事をして儀式を終え定型化されていた。文久の改革は文久2年（1862年）に勅使「大原重福」と護衛の島津久光の参府要求でなされた一連の人事・職制・諸制度の改革で、ポイントは慶喜の将軍後見職・松平春嶽の政事総裁職就任と参勤交代制度の改革（江戸と国許の隔年往復から3年に一度且つ正妻・嫡子の帰国自由が骨子）であり、これにより譜代老中の幕府政治から在京の慶喜・春嶽と朝廷政治に変わった。その後紆余曲折を経て、二条城での「大政奉還」により参勤交代制度は消滅した。	9名
2022年 9月8日 (木) 金沢公会堂 第2会議室 更級日記①	更級日記 平安時代中頃に書かれた日記を兼ねた回想録。 作者は菅原道真の5世孫にあたる菅原孝標女(次女)。夫の死を悲しんで書いたといわれ、作者13歳から53歳頃の約40年間に綴られている。寛仁四年(1020)あづま路(京都から東国へ行く道・東海道)のはてにて、姉や継母が光源氏の物語を語るのを聞くにつけて、全体を読みたくて、等身大の薬師仏を作らせて人目の無いときに密かに持仏堂で額づき「京に早く上がってたくさんあるという物語をある限り見せてください」と祈り申し上げているうちに、十三になる年、父の任期がきて京に上ることになり、九月十三日門出した。一時的に滞在した所は海が近く夕霧が立ちわたってたいそう趣深い。十五日、雨があたりを暗くするほど降っている中、上総と下総の境を出て、下総の国いけだという所に泊まった。	11名

古文書を読む会 学習記録

第二学習 吉宗と尾張藩主宗春の角逐		
開催日時 会場 テーマ	学 習 内 容	参加者
2022年 7月29日 (金) 金沢公会堂 第2会議室 吉宗と尾張 藩主宗春の 角逐④	<ul style="list-style-type: none"> ・たとい千金をのべたる物でもかろぎ人間一人の命には代えがたし。 ・厳し過ぎは良くない。支配者は庶民の事情をよく知り、物の値段まで知るようになれば庶民の困窮を知ることが出来る。 ・国を治る者は急に何かを作り規制してもうまくはいかないものなり。とくと年数かければ、後々法度の世話なくて済むようになる。 ・急に改め直す事ばかりでは間違いを犯すこともある。自分一人の思慮分別だけではダメで 諸人の補佐を取り入れるべきである。 講師より尾張藩藩士等について説明があった。 元禄時代、尾張藩家老は万石家老が5名いた。筆頭家老は犬山城主の成瀬氏。 藩士は7200名、陪臣は17000名以上。よって尾張藩武士は約25000名にもなる。	11名
2022年 8月25日 (木) 金沢公会堂 第2会議室 吉宗と尾張 藩主宗春の 角逐⑤	徳川宗春は第3代尾張藩主の19男として生まれる。19男なるが故に跡取りにはなれず、江戸の町にくり出しては芝居見学や遊郭で遊ぶなど、自由気ままな生活を送っていたが、兄弟の多くが早死や他家の養子となったりしたため彼が第7代の尾張藩主となった。 吉宗の強力な緊縮・儉約の「享保の改革」で日本中が畏縮する中、これに反対し規制緩和、市場原理を実践する名古屋城下のみは各地から商業資本や娯楽が集まった。 『夢の跡』は名古屋の繁栄を示す。 『夢の跡』序（作者未詳なるも側近の一人とみられている） “夫天地は万物の逆旅、光陰は百代の過客とか哉（李白）。世の有様みなかくのごとし。西へ戻り東へ急ぐ東海道の南海に先走る平安国あり、此の土地のうるわしさに比べるに物なし。我が尾張国は衣食住に満ち足り、誠に日本第一上国といえたり。 我が一生のたくわえもあるがごとく楽しむ、何かある度に筆まめに書きつけし記を夢の跡と 名付く“	10名
2022年 9月22日 (木) 金沢公会堂 第2会議室 吉宗と尾張 藩主宗春の 角逐⑥	今回より遊里「夢の跡」を読む（著者は家人の横井時般説が有力） 丙寅（延享3年・1746）の初夏 広小路から繁華街の本町通りを南に向かう。 <ul style="list-style-type: none"> ・廣小路神明、社内に明石の森太夫と偶人（あやつり）芝居の半左工門の小屋あり。 九月十五日の夜は懸行燈隙間なく火をともし、門前に住吉や伊せやの茶屋あり。色々な出店が賑わう。 ・橋の東側には諸寺の法会開帳札或いは芝居の替わりの札などの建場あり。夜は辻駕籠など出て往来のたすけとなる。橋の両側には色々な売物あり、させるや多したばこやも数軒あり。 ・若宮八幡宮、社地内に笠屋小吟という女芝居あり、又歌舞伎芝居もある。貸座敷の茶屋も有り、当流しっぽくの風流、芝居の弁当もあり。此辺美をつくしての茶屋ひらきあり。 	11名

「ふれあいの道歩こう会」実施概要 No.38

代表 柴崎 幸治

通算 第177回 関東ふれあいの道 神奈川県コース 16番 大山参り蓑毛のみち

今回は「関東ふれあいの道 神奈川県コース」の「16番 大山参り蓑毛のみち」を歩いた。このコースは蓑毛バス停から蓑毛越、大山阿夫利神社・日向薬師の歴史、モミ原生林の森林浴、下社や見晴台からの眺望を楽しみ日向薬師バス停に抜ける、盛りだくさんのハイキングコースです。

蓑毛バス停で体操をしてスタート。蓑毛橋の手前から柏木林道を登って行きヤビツ峠との分岐を右に入り蓑毛越を目指します。半端でない蒸し暑さときつい登りなので、適時の休憩と水分補給休憩をとりながら蓑毛越に到着（ここは、浅間山、大山山頂、下社へのみちが交差するところ）。ここで20分の休憩で元気を取り戻し、阿夫利神社下社を目指します。途中鎖場等がありますが整備されており歩きやすい道で時々谷から気持ち胃風が吹いてきました。阿夫利神社下社に到着し確認すると大半の方にヤマビルが見つかりました。下社売店脇から大山のモミ林を過ぎ、二重滝（撮影P）で撮影しました。ここからなだらかなみちで、新しく設置された橋を渡り、さらになだらかなみちを登ると見晴台に到着。大山三峰は見えましたが、大山山頂は雲がかかって見えません。見晴台で昼食休憩をとり、なだらかな下りみちを日向越（雷峠）へ、ここから九十九曲りといわれる、ジグザグみちをひたすら下り林道を渡りさらに下り日向学習センターに到着。ここから日向薬師バス停までは舗装された車道となります。途中ヤマユリ咲いていた雨降山石雲寺山門、立派な三重塔の浄苑願寺を通り過ぎると民家が増えてきて、白鬚神社にそしてゴールの日向薬師バス停に無事到着しました。

実施日：2022年7月21日(木) 天候：曇り 歩行時間 約5時間30分 歩行距離 約8.7km

参加者：11名(男性10名 女性1名) コース所在地：神奈川県 秦野市、伊勢原市

交通：往路：(京急) 金沢文庫 6:00 発 ⇒ 6:16 着 横浜 (相鉄) 6:23 発 ⇒ 6:57 着 海老名 (小田急) 7:07 発 ⇒ 7:12 着 秦野駅

復路：日向薬師バス停 15:20 発 ⇒ 15:40 着 小田急 伊勢原駅(解散)

伊勢原駅 15:50 発 ⇒ 15:54 着 海老名 (相鉄) 16:06 発 ⇒ 16:30 着 横浜駅 着

コースと時間：秦野駅 8:35 発(神奈中バス 蓑毛行) ⇒ 8:57 着 蓑毛バス停

蓑毛バス停 (準備体操、トイレ、他) 9:15 ⇒ 9:43 秦野無線中継所入口 9:48 ⇒ 10:15

蓑毛越 10:30 ⇒ 11:15 阿夫利神社下社 11:25 ⇒ 11:40 二重の滝(撮影 P) 11:47 ⇒

12:10 見晴台 (昼食) 12:40 ⇒ 13:00 日向越(雷峠) ⇒ (九十九曲) ⇒ 14:05 日向ふれあ

い学習センター ⇒ 14:20 石雲寺山門 14:25 ⇒ 14:30 浄苑願寺前 ⇒ (Goal) 14:43 日向薬

師バス停

(本ページ 江口副代表 記)



二重滝(撮影P.)



二重滝(撮影P.)

通算 第 178 回 関東ふれあいの道 神奈川県コース 15 番 弘法大師と丹沢へのみち

9月の例会は、2019年から歩き始めた「関東ふれあいの道 神奈川県 17 コース」の最後のコースとして15番「弘法大師と丹沢へのみち」を実施した。この15番は2021年6月に実施した9番「弘法大師と桜のみち」と起点の南平橋バス停から権現山山頂まで同一のコースを辿り、権現山からは秦野市街に下り、再び蓑毛までの緩やかな上りの大山の裏参道を歩き、奈良・平安・鎌倉時代の歴史を物語る遺構・名刹を辿るコースである。コースガイドによる歩行の距離は8.6km、所要2時間45分のコースである。

バスを南平橋で降り、そのまま田園地帯の路を健速神社へ、そこで挨拶、準備体操を実施する。そして神社の裏手から、9番「弘法大師と桜のみち」と同じ路を峰の上橋、県道、県道を右に入り、しばらく住宅地を歩き、弘法山公園の標に沿い、住宅地を抜けると白山神社である。神社で休憩を取り、神社横のたわわに実ったキュウイ畑を横目に山道を進み、市道に出て、しばらく歩くと権現山登山口に到着、ここは休まず一気に権現山山頂へと進む。山頂の展望台に上り、景色を堪能し、と言っても当日は薄曇りの日で、遠景はあまりはっきりせず、半満足。山頂の舞台を観るような半円形の階段状の席で、景色を見ながら昼食をとる。

昼食後は、弘法山方面に山を下り、弘法山の登り口の手前を市街へと下る。栗林や畑を見ながら、加茂神社、弘法富士見公園と閑静な住宅街を抜けると、国道246号の名古木(ながぬき)の交差点に出る。名古木交差点を直角に渡り、蓑毛・ヤビツ峠行のバスの通る県道に入る。右手側は以前たばこ産業会社があった場所で、現在は空き地となっている。少し歩き、左側の路に入り、住宅街の緩やかな坂道を歩き、やがて地蔵山光明院に着く。この道は古くは大山への裏参道として知られている。光明院でしばし休憩し、寺の裏手となる坂道を上ると落合の住宅街の市道に出る。この市道を、山並みを見ながら東小学校前、東公民館前の路と歩き、やがて象ヶ谷戸、新東名道路の下を通り、県道に出て小蓑毛バス停に着く。ここの道端で休息。ここから蓑毛バス停までは連絡区間でバス等を利用して良いが、重い腰を上げて、蓑毛バス停を目指す。途中、路の真ん中に大きい鳥居があり、道の中央に出てくぐり抜け、水車がある休憩地も休まず、緩やかに上っている路を、力を絞り歩く、そして蓑毛バス停に到着。このバス停の所からすぐの所にある法蓮寺 大日堂がこのコースの撮影ポイントである。早々に集合し、撮影、これで今日の15番「弘法大師と丹沢へのみち」は終了。

1時間に1本のバスは出たばかり、次のバスの時間まで、各自、着替えたり、近くの神社を詣でたり、また、大日堂から道を隔てた法蓮寺の境内に入り本堂に参り、御朱印をいただいたり、境内で休息したりして、のんびりとゆったりした時間を過ごした。山歩きしてこんな贅沢な時間を過ごしたことはあまりなく、なんか、得した気分であった。帰路は蓑毛バス停から秦野駅に出て、横浜へと戻る。

実施日：2022年9月15日(木) 天候：曇り 歩行時間：約5時間 歩行距離 約10km

参加者：21名(男性16名 女性5名)

コース所在地：神奈川県 秦野市

交通：往路：京急 金沢文庫 7:54 発 ⇒ 8:13 着 横浜 [相鉄] 8:25 発 ⇒ 8:54 着 海老名

[小田急] 9:06 発 ⇒ 9:27 着 秦野

復路：蓑毛バス停 15:46 発 ⇒ 16:10 着 小田急秦野駅 [小田急] 秦野 16:19 発 ⇒ 16:39 着

海老名 [相鉄] 16:44 発 ⇒ 17:20 着 横浜

コースと時間：秦野駅 9:45 発(神奈中バス 平塚駅北口行) ⇒ 9:56 着 南平橋バス停 バス停 9:56 ⇒ 10:04 健速神社[挨拶・準備体操] 10:17 ⇒ 10:22 東名高速 峰の上橋 ⇒ 10:50 白山神社 11:00 ⇒ 11:11 権現山登山口 ⇒ 11:22 権現山(昼食) 12:05 ⇒ 12:30 加茂神社 ⇒ 12:50 名古木 ⇒ 13:06 光明院 13:26 ⇒ 13:55 東小学校前 ⇒ 14:05 象ヶ谷戸 ⇒ 14:15 小蓑毛バス停 ⇒ 14:40 蓑毛バス停 ⇒ 14:45 法蓮寺 大日堂(撮影P)、他 ⇒ 法蓮寺境内(休息) 15:12 ⇒ 15:20 蓑毛バス停(トイレ、休息)

秋秦野古道を巡り大日堂 一祝



権現山山頂にて



大日堂(法蓮寺)にて(撮影P)

白い巨塔

観賞日 2022年7月11日 上映時間 149分

【参加者：34名】

【概要】

制作 1966年 大映

監督 山本薩夫

原作 山崎豊子

脚本 橋本忍

音楽 池野成

撮影 宗川信夫

出演 田宮二郎（財前五郎）、田村高廣（里見脩二）、東野英治郎（東貞蔵）、小沢栄太郎（鶴飼雅行）
 滝沢修（船尾巖）、船越英二（菊川昇）、藤村志保（東佐枝子）、長谷川待子（財前杏子）
 加藤嘉（大河内清作）、加藤武（野坂）、下條正巳（今津）、鈴木瑞穂（関口弁護士）



【あらすじ】

1960年頃の大阪。浪速大学医学部助教授の財前五郎は神の手を持つ外科医として、マスコミにも取り上げられる存在であった。野心家の財前は翌年3月に退官する恩師の東教授の後任教授選挙に挑む。しかし、肝腎の東教授の覚えが悪く楽観は許されない状況であった。教授選挙は基礎16票、臨床15票合計31票を巡る激しい戦い。拮抗する情勢。飛びかう利権とカネ。虚々実々の駆け引き。総てを巻き込んだ総力戦。その裏で、秘かに進行する医療ミス事件。何とか、僅差で当選し念願の教授の座を手に入れた財前であったがそれも束の間、今度は医療ミスで訴えられる。そして、終盤は一気に緊迫した法廷劇に突入。果たして裁判の行方は・・・。

スピーディーな展開。象牙の塔に鋭いメスを入れた文芸大作。度々映像化された問題作。とにかく面白い。

【解説】

■ポイント

●最高のスタッフ

製作：永田雅一

原作：ベストセラー作家、山崎豊子の同名小説。

財前五郎を演じた俳優：佐藤慶、田宮二郎（テレビ版）、村上弘明、唐沢寿明他

脚本：シナリオ界の巨人、橋本忍

監督：娯楽映画の巨匠 山本薩夫（山崎作品を他にも撮る）

華麗なる一族（1974年）、不毛地帯（1976年）

■見どころ

●多様な対立軸を設定した巧みな構成

財前 vs 里見、浪速大学（大阪）vs 東都大学（東京）vs 山陰大学、権威 vs カネ、
 医学界の大立者 vs 地域医師会（開業医）、教授 vs 助教授 vs 医局員、医師 vs 患者

●田宮二郎演じる財前五郎（田宮の当たり役）

悪役にもかかわらず何故か魅力的

財前五郎という人物の魅力か田宮の演技力か

●光る脇役陣：強烈な個性

石山健二郎（財前又一）：財前五郎の義父、小川真由美（花森ケイ子）：財前五郎の愛人

●オープニングとエンディングの教授の総回診シーンは白い巨塔を象徴するシーン

真昼の決闘 (High Noon)

観賞日 2022年7月25日 上映時間 85分

【参加者：36名】

【概要】

制作 1952年 アメリカ

監督 フレッド・ジンネマン

脚本 カール・フォアマン

音楽 ディミトリ・ティオムキン

撮影 フロイド・クロスビー

出演 ゲイリー・クーパー (ウィル・ケイン保安官)

グレース・ケリー (妻エイミー)、ケティ・フラド (酒場の女主人ヘレン・ラミス)

トーマス・ミッチェル (ハンダーソン町長)



【あらすじ】

鉄道開通後のアメリカ南部。日曜日、午前10時35分。長年、町の治安に貢献してきたウィル・ケイン保安官の結婚式。新婦エイミーとの式を終えて晴れて保安官を辞職しようとしていた矢先、とんでもない電報を手にする。5年前絞首刑送りにした、ならず者のミラーが仲間を連れて、お礼参りにやって来るという。しかも、今日の12時に。夫の身を案じて逃げることを主張するエイミー。町の住民と協力してならず者一味を撃退しようとするケイン。ところが、肝腎の住民はケインの懸命の説得にもかかわらず、ならず者を恐れて誰一人として協力しようとしな。それどころか、ケインに早く逃げるよう説得する。徐々に明かされる過去の因縁。思い悩むケイン。刻々と過ぎる時間の中で、遂にケインは無謀な孤立無援の戦いを決意し、遺書をしたためる。12時、定刻通り列車が到着。1対4で臨む決闘・・・。

西部劇の傑作。時代が生んだ名作。

【解説】

■ポイント

●異色の西部劇

勇気と正義を旗印として、弱虫と嘘つきを嫌う伝統的な西部劇とは一線を画する異色の西部劇。

●受賞 (第25回アカデミー賞)

7部門にノミネートされ4部門で受賞

主演男優賞 (ゲイリー・クーパー)、音楽賞・歌曲賞 (ディミトリ・ティオムキン)

編集賞 (ハリー・ガースタッド、エルモ・ウィリアムズ)

●評価

AFI (アメリカ映画協会) のアメリカ映画ベスト100 (2007年): 27位 (西部劇では2位)

■見どころ

●上映時間と映画内容が同時刻で進行

12時の決闘シーンまでの緊迫感とリアル感を醸成する見事な演出

●クーパーとケリー

ゲイリー・クーパーは2度目のオスカーを受賞。

グレース・ケリーは本作が出世作となり、サクセスストーリーがスタート

●主題歌

聞き覚えのある名曲、ハイヌーン

理由なき反抗 (Rebel Without a Cause)

観賞日 2022年8月8日 上映時間 111分

【参加者：37名】

【概要】

制作 1955年 アメリカ
監督・原案 ニコラス・レイ
脚本 スチュワート・スターン、アーヴィング・シュルマン
音楽 レナード・レーゼンマン
撮影 アーネスト・ホーラー
出演 ジェームズ・ディーン (ジム・スターク) ナタリー・ウッド (ジュディ)
サル・ミネオ (ブレイトー)
コリー・アレン (バズ)、エドワード・ブラッド (レイ)



【あらすじ】

深夜、高校生のジム・スタークは路上で泥酔していたところを補導され警察署に連行される。その晩、警察署には他にジュディとブレイトーという二人の若者が連行されていた。ジムは両親との間にわだかまりがあったが、少年課の警官レイに説得されて家に帰る。翌朝、学校に行くと昨晚のジュディとブレイトーが同じ学校の学生だとわかる。午後、ジムは不良連中に目を付けられ、ジュディの恋人でリーダー格のバズとナイフで決闘するが、勝負がつかずチキンレースで決着をつけることになる。夜、ジュディの合図でレースが開始されるが、ここでハプニングが起きる。バズが車から降りそこねて崖から転落死したのだ。両親には猛反対されたが、ジムは警察に行く決意をする。しかし、訪ねたレイがいにくパトロール中であり、仕方なくブレイトーから聞いていた隠れ家にジュディと共に行くことになる。そこに、ブレイトーと不良3人が別々に現れて、動揺したブレイトーは一人を射殺してしまう。警官に包囲されたブレイトーを自首させようとしたジムであったが……。

ジェームズ・ディーンの魅力満載。青春映画の古典的名作。

【解説】

■ポイント

- 1950年代アメリカ青年が愛したもの
 - ・リー、リーバイスのジーンズ
 - ・エルヴィス・プレスリーの音楽
 - ・ジェームズ・ディーンのパッション

●1日の出来事

ジムの泥酔からブレイトーの死亡まですべて1日の出来事

●受賞 (1956年第28回アカデミー賞)

3部門にノミネート (原案賞、助演男優賞：サル・ミネオ、助演女優賞：ナタリー・ウッド)

■見どころ

●J・ディーンのパッション

有名になった、マクレガーの赤いジャケットとリーのジーンズ

●チキンレース

●グリフィス天文台

本作で使われた天文台は名所になり、その後たびたび映画に登場 (ラ・ラ・ランド等)

フラガール

観賞日 2022年8月22日 上映時間 120分

【参加者：38名】

【概要】

制作 2006年

監督 李相日

脚本 李相日、羽原大介

音楽 ジェイク・シマブクロ

撮影 山本英夫

出演 松雪泰子（平山まどか）、豊川悦司（谷川洋二郎）、蒼井優（谷川紀美子）

富司純子（谷川千代）岸部一徳（吉本紀夫）、山崎静代（熊野小百合）、徳永えり（木村早苗）



【あらすじ】

昭和40年、炭鉱の町福島県いわき市。石炭から石油へというエネルギー革命が進行し、地元の常磐炭鉱では相次ぐ人員整理が行われる。炭鉱会社がこの危機への打開策として打ち出したのが常磐ハワイアンセンターの建設。ヤマの人たちは建設賛成派と反対派に分かれる。東京からフラダンスの先生、平山まどかがやってくる。まどかは名門SKDの出身。地元の高校生谷川紀美子はさびれる炭鉱町から抜け出す手段としてフラダンサーに応募する。応募した生徒はズブシロの4人のみ。最初は冷めていたまどかも意外なほど熱心な生徒たちを前にレッスンに力が入る。徐々に生徒が増えるにつれてそれらしくなっていく。初めて客を前にした舞台は大失敗に終わるが、経験を積み重ねフラガールの技量も向上。やがて、分裂していたヤマ全体がワンチームになり、一気に建設に向けて走り出す。いよいよ、オープン当日。躍動するフラガールと盛り上がる観客。

「ハワイアンがヤマをつぶすか、ヤマを救うか」。古い炭鉱町に意識革命をもたらした実話の映画化。ヤマの娘たちの友情と成長。その年の日本アカデミー賞作品賞受賞作。笑いと涙、感動の2時間！

【解説】

■ポイント

●常磐ハワイアンセンター（スパリゾートハワイアンズ）

- ・エネルギー革命により不況に陥っていた常磐炭鉱の再生策として、当時行ってみたい外国NO1であったハワイに着目、「常磐ハワイアンセンター」の建設を計画
- ・同センターは1966年にオープン、当初は経営が危ぶまれていたが1970年には155万人の入場客を集めた
- ・25周年を機に「スパリゾートハワイアンズ」に改名。その後、入場客は一進一退を繰り返したが、本作の公開により2007年度には過去最高の161万人の入場客を集めた。



●受賞（第30回日本アカデミー賞）

7部門にノミネートされ4部門で受賞

作品賞、監督賞、脚本賞、助演女優賞（蒼井優）

■見どころ

●実話自体の面白さ

倒産寸前の炭鉱をテーマパークに衣替えして成功させるという実話が面白い

●蒼井優の存在感

公開当時21歳であるが存在感は助演女優賞にふさわしい。

●駅でまどかにフラにより気持ちを伝えるフラガール

OK 牧場の決闘 (Gunfight at the O.K. Corral)

観賞日 2022年9月12日 上映時間 122分

【参加者：38名】

【概要】

制作 1957年 アメリカ
監督 ジョン・スタージェス
脚本 レオン・ユニス
音楽 ディミトリ・ティオムキン
撮影 チャールズ・ラング
出演 バート・ランカスター (ワイアット・アープ)、カーク・ダグラス (ドク・ホリデイ)
ロンダ・フレミング (ローラ・デンボー)、ジョー・バン・フリート (ケイト・フィッシャー)
ジョン・アイアランド (ジョニー・リンゴ)、デニス・ホッパー (ピリー・クラントン)



【あらすじ】

ベイリー兄弟がドク・ホリデイを殺しにOK 牧場にやってくる。酒場の女ケイトはそのことをドクに告げ一緒に逃げようと説得するがドクは聞き入れない。ドクを訪ねてダッジ・シティの保安官で西部中に勇名をはせているワイアット・アープが現れる。ドクは今でこそ無法者のギャンブラーであるが、かつては紳士で腕の良い歯科医であった。そして、その昔ワイアットの歯の治療をしたこともあった。ワイアットはリンチに遭いかけていたドクを助け出す。すると、それに恩を感じたドクはワイアットの頼みを聞きワイアットの助手をつとめることになる。ダッジ・シティのダンス・パーティー。そこにならず者のシャンハイ味が入り、ドクがその騒ぎをおさめる。ワイアットは美人のギャンブラー、ローラとの結婚を考え新天地で静かに暮らそうとしていた矢先、トゥームストーンで保安官をしている弟から SOS の報せを受け、ドクもワイアットに付き従う。クラントン兄弟とそれに雇われた大物助っ人。対するはワイアットを筆頭にアープ兄弟とドク。弟を殺されたワイアットはクラントン兄弟との対決を決意する。

西部開拓時代に起きた名高いOK 牧場の銃撃戦。二大スターが描く義理人情の西部劇。

【解説】

■ポイント

●史実・OK 牧場の決闘

- ・1881年10月、アリゾナ州トゥームストーンのOK コラルで起きた銃撃戦。
- ・保安官組 VS カウボーイズ

保安官組 (4人) : アープ兄弟、ドク・ホリデイ

カウボーイズ (6人) : クラントン兄弟、マクローリー兄弟他

●ワイアット・アープ (1848年~1929年)

- ・イリノイ州生まれ。1875年カンザス州の保安官事務所に勤務。1879年、トゥームストーンの保安官に就任。1881年にOK 牧場の決闘を起こす。
- ・晩年はロサンゼルスに定住、映画監督のジョン・フォードと親交を持ち、西部劇制作に影響を与えた。



■見どころ

- ワイアット・アープとドク・ホリデイの西部の男同士の友情
銃に命を懸けた男、違いはバッジの有無。東映やくざ映画の世界。
- 西部劇の華・クライマックスの決闘シーン
- ディミトリ・ティオムキン作曲、フランキー・レインが唄うテーマ曲

明日の記憶

観賞日 2022年9月19日 上映時間 122分

【参加者：17名】

【概要】

制作 2006年

監督 堤幸彦

原作 荻原浩 「明日の記憶」

脚本 砂本量、三浦有為子

音楽 大島ミチル

撮影 唐沢悟

出演 渡辺謙（佐伯雅行）、樋口可南子（佐伯枝実子）香川照之（河村篤志）
遠藤憲一（長谷川局長）、吹石一恵（伊東梨恵）、坂口憲二（伊東直也）
及川光博（吉田医師）、田辺誠一（園田）、渡辺えり子（浜野喜美子）



【あらすじ】

佐伯雅行 49歳、仕事一筋で「ビシッと行こう」が口癖の広告営業マン。ビッグ・プロジェクトを獲得し、一人娘の結婚も決まり、公私ともに幸福の絶頂を迎えていた。しかし、このところ頭痛、めまい、極度のもの忘れ等の不調を感じていた雅行は、妻の枝実子と病院を訪ねる。すると、若年性アルツハイマーであることを宣告される。絶望して自殺を試みようとする雅行。病気が進行し、仕事に堪えられなくなった雅行は閑職に追いやられ退職する。出口のない病気に直面する雅行と枝実子。枝実子も家計を助けるため仕事に出る。初孫も生まれ、昔やっていた陶芸を再開する雅行であったが、病気は徐々にそして確実に雅行をむしばんでいく。奥多摩の山中で、迎えに来た枝実子に出会った雅之はもはや枝実子の存在すら忘れていた。

絶望的な状況にあっても変わらぬ夫婦の情愛。深い悲しみとこみ上げる感動。映画初主演、渡辺謙、渾身の演技。

【解説】

■ポイント

●渡辺謙

- ・原作は直木賞作家、荻原浩の山本周五郎賞受賞作
 - ・自身も白血病で闘病経験のある渡辺謙が原作にほれ込んで原作者に映画化権の獲得を依頼し自ら製作総指揮を執り完成させたもの。
 - ・渡辺謙は2003年公開の「ラストサムライ」により海外でもブレイクし、第76回アカデミー賞助演男優賞を受賞したが、意外なことに映画主演は本作が初めて。
 - ・第30回日本アカデミー賞、最優秀主演男優賞を受賞
- ##### ●若年性アルツハイマー病をテーマにした名作（作品名・制作年・主演）
- ・「アリスのままで」（2015年）：ジュリアン・ムーア
 - ・「私の頭の中の消しゴム」（2004年）：ソン・イェジン
 - ・「半落ち」（2004年）：寺尾聰



■見どころ

●主役の夫婦を演じた渡辺謙と樋口可南子の演技

突然、絶望的な状況に置かれた主人公の苦悩とそれを必死に支える妻の苦闘を好演ラストの奥多摩山中で出会った二人、樋口の表情は涙を誘う

●大島ミチル作曲のテーマ曲

随所に流れる、「家路」（ドヴォルザーク交響曲第9番・新世界より第2楽章）に似た、もの悲しい旋律。印象に残る宮本文昭のオーボエ。

「浮雲俳句会」

抄録 NO.58

代表 太田 耕蔵

7月には新型コロナウイルス・オミクロン株の爆発的な感染拡大のため、メール句会を余儀なくされましたが、7～9月間は休会にすることもなく句会を実施することが出来ました。また、6月からは新会員2名の参加を得て新たな雰囲気句会が始まり、合評の発言量も増え句会の活性化が深まりました。今後大いに期待しております。

161回句会 令和4年7月31日

会員選の特選句と自評

大蜘蛛の八脚支点力満つ

あきえ

小さな蜘蛛はよく見かけ、時には部屋にまで入って来ていてそっと窓の外へ逃がしています。暑い一日が終わりかけた薄暗い中、突然黒い長い脚が目にとまりました。よく目を凝らすと地面に今まで見た事がない程の大きな蜘蛛が。四方に脚を広げカー杯踏ん張っている姿に圧倒されました。

打ち水に浄土生まるる石畳

十 九

打ち水と言う習慣が、いつ頃から始まったのかわからないが、多分、我が国固有の「文化」なのであろう。時を超えて、町民の家々の前の道は勿論、寺社の参道、賑やかな商店街の通りなどで、手桶に汲んだ水を手にした柄杓で心こめて撒くという所作は、詩的でさえある。そして何より炎暑のなかを歩く者にとっては、地獄で仏の有り難さもある。「浄土生まるる」には、些かの躊躇がなかったとはいきれないが、心から有り難いという気持ちにもなることは確かであろう。自評にあれこれ思いを巡らせていると、ふっと、下の句が心に浮かんだ。三十一文字（短歌）にしてみる。「水打てば浄土生まるる石畳 恵みの風に身を委ねゆく」

一輪車影引く砂場晩夏光

あきえ

近くの公園で午前中は母子連れの姿が、午後はボールで遊ぶ子供達がよく見受けられます。ある日の夕方、珍しく子供達の姿は見え、置き忘れたのか砂場の縁に立てかけてある一輪車が目に入りました。その一輪車の長い影が砂場にくっきりと。炎暑の中の一景です。

土用波見つむる漁師深き皺

三 旦

伊豆の八幡野で詠んだ句です。30年以上前、スクーバダイブで何回かこの漁港に行きました。久しぶりに訪れたら、旧知の船頭さんはまだ存命で、二人並んで岸壁で昔話をしました。

滝雲の静寂(しじま)に座る夏の朝

真 青

夏の北アルプス表銀座コースで2日目に出遭った光景を詠んだ。音もなく峰を越えて流れゆく滝雲を見る機会が少ない。早立ちの縦走路に皆としばし腰を下ろして静かな休憩をとった。

夕顔や一夜の妍を誰手折らむ 重九

今年もわが家の垣根に白い夕顔が咲いた。夕に花が開いて朝には萎んでしまうが、なまめかしく艶やかな一夜の花である。「源氏物語」夕顔の巻に光源氏が従者にとある家の垣根に咲く夕顔を手折らせる描写がある。そこから儚い恋が始まったのである。

月下美人甘き吐息に酔ふ一夜 とも女

我が家のリビングに月下美人の鉢が置いてある。もう20年以上経つが、元気がよく、蔓が天井まで伸びている。花が咲き始めて5、6年になるが、年によって咲く花の数が違う。今年は、まだ一つだが、次の蕾が見えている。夜も暗くなり始めたころ、大きな蕾がゆっくりと開き始める。すると、部屋中、香りが充満する。夜も深まって12時頃になると、全開する。その時が一番美しい。一日の疲れが吹き飛ばす一夜である。

凌霄(のうぜん)の陽色に染まる露地静か 和女

近頃、鮮やかなオレンジ色の凌霄花(のうぜんかずら)を見ることが多い。蔓を伸ばし、枝先に群れ咲く花は見事です。人の気配がなく、ひっそりと静まり返っている家の路地にも、明るい色が広がっていました。

夏蝶のさらはれてゆく風の跡 和女

盛夏の中でも蝶は庭にやって来ます。花の蜜を求めて、高く低く舞っていた蝶ですが、さっと強い風が吹いた爆発的感染拡大のため、後、目の前から姿を消していました。

162回句会 令和4年8月28日

会員選の特選句と自評

くぐり戸の色なき風や尼の寺 二祥

大和の山奥に、素朴でこぢんまりとした佇まいの尼寺がある。その尼寺の門の潜り戸に風が吹き込んでいる澄んだ混じり気のない秋の風だ。映像で色なら何色かなあと思った。季語は「色なき風」とした。平安時代の歌人、紀友則は「吹き来れば身にもしみける秋風を色なきものと思ひけるかな」と歌い、秋の風を「色なき風」としたが始めと言われる。色に例えると白で素風という事です。多少抽象的と思いましたが、この季語を使いました。こんなに加点をいただくとはびっくりです。

西瓜割る百寿の母の声高き 十九

百寿を過ぎても義母はそこそこ元気で、日を過ごしている。若い時分、村の依頼で料理教室の指導をしていたが、さすがに、百寿すぎれば西瓜割りさせるわけにもいかない。この句は、「西瓜割る」で切れる句である。割られた西瓜を見て、百寿の義母が「わああおいしそう」と大きな声を発した場面を詠んだものである。あの、元気な声をいつまで聞かせてくれるのだろうか。

沈む日の色ほんのりと穂草波 十九

子供の頃から、秋野原一面に穂草の開く風景に心惹かれていた。それは、なんとも和やかで平和な心安らく光景であった。花々や紅葉の派手な色彩はなくても、平和で豊かさをも見せてくれたものであった。そして、入り日の茜を仄かに浮かべて緩やかな風に揺らぐほんの一時のやさしさは、まさに浄土庭園の如くであった。この、今の心煩わしい出来事ばかりの世界から、あの心安らく世界へと逃れたいくなる風景。

いなびかり一筆書きの右下がり 國 眼

蒸し暑い日が続き、森羅万象が何かを待ち望んでいるようだった。その時、まさに稲妻走り。電光が閃くように速く走った。一筆書きの幾何模様で、雷神様の降臨だ。

戯れて風となりゆく秋の蝶 とも女

我が家の小さな庭へも、時折、蝶が飛んでくる。秋になっても見かけることがあり、嬉しくなる。花壇を目掛けて飛んでくるようだが、止まりたい花が見つからないのか、なかなか止まろうとしない。そのうち心地よい風が吹いてきて、誘われるように姿を消した。きっと、風と化したのだろう。

瀬の音に深い眠りや秋の宿 一 椀

結婚 10 年ぐらい経った頃、義理の父母がとても気に入っている修善寺温泉の老舗旅館へ我々家族 4 名を誘ってくれた。川沿いのとても静かな佇まいの旅館で部屋の風呂も檜づくりでとても風情がありゆっくりと温泉に浸かり、夜は川の瀬音を聞きながら深い眠りについたことが良い思い出として記憶に残っている。そのことを一句にしたためた。

卒寿には卒寿の気合西瓜割る とも女

夫は現在卒寿である。夫は昨年大腿骨折をして手術をし、退院してからは、家の中でも歩行器か杖を使っている。以前のように、体を動かさず、家事をしない。先日、わたしは、息子と三浦の市場で、大きな西瓜を買ってきた。わたしは、夫に「西瓜を切ってくれますか。」と冗談のつもりで言ったのだが、「切るよ。」と意外な返事だった。重い大きな西瓜を、やっとまな板の上に載せて、包丁を渡した。わたしは、そばで見守っていた。以前は、西瓜やパイナップルは、夫の担当だった。気合を込めて包丁を入れ、西瓜は二つに割れた。緊張したせいか、終わると、夫はぐったりしていた。お疲れ様。

163 回句会 令和 4 年 9 月 25 日

会員選の特選句と自評

ゴンドラの振る手返す手大花野 とも女

5 年ほど前のことですが、家族 3 人で、信州の安曇野・白馬方面へ旅行しました。天候に恵まれ、快適な三泊四日の旅となりました。白馬五竜高山植物園へは、ゴンドラに乗り、中で、信州の山々や、のどかな田園風景を望むことができました。また、すれ違うゴンドラの中の人たちが、笑顔で手を振っており、それに答えて、手を振るのも、いい気分でした。山頂では、高山植物が見られ、大花野を満喫しました。

堂裏に猫の道あり秋の暮 二 祥

自宅の前は富岡八幡宮の社叢と草むらです。そこには少し太った二匹の野良猫が屯している。今日も散歩中に木の下に現れ、草むらに消えて居なくなった。秋の日は釣瓶落とし、何処をめぐらにしているやら。何処かに猫

のだけのおり道があるのではとってしまう。又ありそうだ。そんな事を考えながら、日常の一コマを詠んでみました。皆様からは意外にいい評価をいただきました。

月山の駒の嘶く花野かな 二 祥

数年前、五木寛之の「百寺巡礼」で山形・寒河江市の「本山慈恩寺」を訪れた帰り、一泊し霊峰月山の雄姿を見ようと麓まで足を延ばした。その時の句を今回改作しました。月山と言えば、芭蕉の名句「雲の峰いくつ崩れて月の山」が思い浮かびます。この時期の月山の広大な裾野は「日本花の百名山」数えられる花の楽園だ。近隣には牛や馬の遊ぶ牧場もある。爽やかな情景を目にし挑戦しましたが、無難に終わりました。

竹の春伸びて少年声変はり 祥 代

孫俳句です。先日今年竹が更に伸びて緑の美しいこの季節に孫が遊びに来てくれました。チョット見ぬ間にクスクと背が伸びて、私が見上げなくてはならないほどに大きくなっていました。そして声変わりまでしていました。孫の成長を言祝ぎ詠んでみました。

軽やかな庭師のさばき天高し 一 梶

庭師の脚絆に地下足袋姿で庭木を軽やかに剪定する姿はなんとも魅力的。私はリタイヤ後は松をはじめ庭木の剪定は自分で行っているので、この一句となった。

虫の音も違う国葬西東 十 九

この句で最後まで迷い逡巡したのは「虫の音の違う」であった。日英両国で、時を同じくして国葬という大きな儀式が執り行われたが、周知の如く、片や国民的にも世界的にも哀惜の情一色の荘厳なものであったのに対し、此方のそれは、正しく国論を二分しての異常なものであった。葬儀の挙行されているその当日にまで、各地に反対の集会が行われているという異様な光景が、テレビをとおして全世界に実況報道されてしまった。それは、残念と言うより、寧ろ屈辱感をさえ拭い得ない情念をひきずるものとなった。投句するのにも迷い悩んだが、あの式典の実況を目の当たりにして更に悩みが深くなってしまった。ご叱責・ご指摘をいただけたら有り難いのですが。

木の実落つ鎌倉殿の夢の跡 勇 平

この句は放映中の大河ドラマを句材としました。源頼朝、義時の因縁深い法華堂辺りをイメージした句です。落ちた木の実のそこはかとなく匂う風情は、武家興亡の哀れさを伝えるには十分の景と思います。

パソコンを使いこなす会 実施報告【10】

2022年7月～9月

2022年度 第7回分科会

- 日時：7月12日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 -図形 -
 1. フォント・サイズを変更する
 2. 中央揃えに設定する
 3. 太字に設定する
 4. インデントを設定する
 5. 図形の作成
 6. 配置で図形を揃える
 7. 図形のグループ化
- 参加者：15名＋Z3名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2022年7月12日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2022年度 第8回分科会

- 日時：7月19日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 -Pdf ファイルの編集 -
 1. PDF は編集できる
 2. PDF 編集でできること
 3. PDF を編集する3つの方法
 4. Word で編集する
 5. Excel で編集する
 6. オンラインでPDFを編集する
 7. PDF 編集ツール
- 参加者：14名＋Z5名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2022年7月19日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

2022 年度 第 9 回分科会

- 日時：8月9日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：WORD 講座 -スマートアート① -
 1. 図形の挿入
 2. スマートアート **A** の作成



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。



この QR コードをスマホのアプリで読み込むと、材料を見ることが出来ます。

- 参加者：17名＋Z1名
 - テキスト：パソコンを使いこなす会_2022年8月9日、16日_テキスト
-

2022 年度 第 10 回分科会

- 日時：8月16日（火）9：30～12：00
 - 場所：八景コミュニティハウス
 - 内容：WORD 講座 -スマートアート② -
 3. スマートアート **B** の作成
 4. スマートアート **C** の作成
 5. 配置の設定
 - 参加者：16名＋Z2名
 - テキスト：テキスト、材料は8月9日に使用のものと同じ。
-

2022年度 第11回分科会

- 日時：9月13日（火）9：30～12：00
- 場所：八景コミュニティハウス
- 内容：Internet 講座 -国土地理院地図 -
 1. 地理院ホーム 一般向け
 2. 地図を表示する
 3. 自宅周辺の地図を見る
 4. 自宅の標高や緯度経度を調べる
 5. 写真と重ね合わせて表示する
 6. 古い写真と並べて比較する.
 7. 地形分類から災害リスクを学ぶ
- 参加者：18名＋Z2名
- テキスト：パソコンを使いこなす会_2022年9月13日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

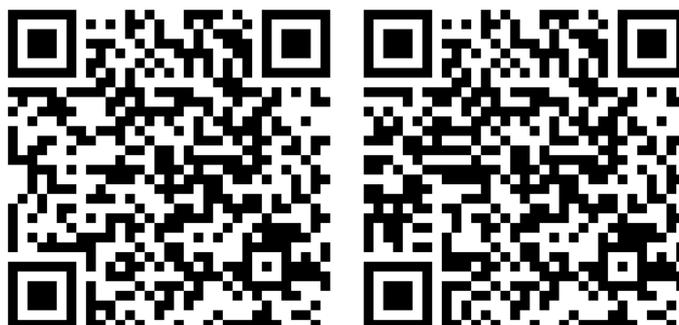
2022年度 第12回分科会

- 日時：9月20日（火）9：30～12：00
- 場所：ZOOMによるオンライン開催
- 内容：EXCEL 講座 -Excelの基礎① -
 1. エクセル画面各部の名称の説明
 2. データ入力・編集
 3. 表示形式・書式設定
 4. セル参照
 5. 絶対参照
 6. フリガナ入力（入力効率化）
- 参加者：Z19名
- ・テキスト：パソコンを使いこなす会_2022年9月20日_テキスト



このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、テキストを見ることが出来ます。

このQRコードをスマホのアプリで読み込むと、材料を見ることが出来ます。



寺社を巡る会 20 周年記念行事を終えて

寺社を巡る会代表 横山美智男

寺社を巡る会は”わ”の会の分科会として平成 14 年 5 月（2002）に 15 名の会員で発足し、毎月の例会、年一回のバス特別探訪など脳と体の活性化を目指して活動してまいりました。

会が創設された平成 14 年（2002）の重大ニューストップは、小泉首相が北朝鮮から 5 人の拉致被害者を連れ帰ったことでした。またこの年のノーベル賞は物理学賞に小柴昌俊氏、化学賞に田中耕一氏の日本人 W 受賞、日韓共催の FIFA ワールドカップも開催され、比較的元気な年であったようです。そんな時代に元気な大先輩たちにより創設されました。

令和 3 年度（2021）をもって 20 年が経過し、このたび令和 4 年 9 月 9 日（2022）に 20 周年記念行事として、講演会および祝賀懇親会を実施しました。

記念行事を実施するにあたっては、令和 3 年度（2021）当初に世話人会で準備と実施について検討し、代表副代表経験者で構成する準備委員会で意見を聞きながら実施方針を策定しました。

実施時期は令和 4 年 8 月（2022）を目途とし、講演会および懇親会の実施、20 年の活動記録 CD の作成、集合写真集の作成などを決めました。しかしながら新型コロナの感染拡大で、月例の探訪も中止が相次ぎ開催が懸念されましたが準備だけは進めてきました。最大の課題は懇親会の会場で一般の飲食店で開催可能な場所は見つかりませんでした。龍華寺の檀家である会員から地蔵堂の借用をお願いしてみようという提案があり、半分いいのだ



ろうかと迷いながらでしたが、まさに「案ずるより産むが易し」で快く了承していただきました。更には地蔵堂の狭さを心配していると、客殿を使ってもらえばいいとお話をいただき、安心して開催できる運びになりました。

祝賀懇親会は 31 名の出席があり、代表挨拶、龍華寺住職のお話し、来賓挨拶

に続き、乾杯の音頭で祝宴が始まりました。2 時間ほどの懇親の中で当初からの会員の当時のお話や、有志の方から会への想いなどのお話もいただき、久しぶりのアルコール付き設立の会食で楽しい時間を過ごせました。多少の会費はいただきましたが、食事も評判が良かったようです。

記念講演会は長くお世話になっている鎌倉ガイド協会にお願いし、放映中のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連したテーマで開催しました。講演内容は本編の活動記録第6回に紹介しています。

寺社を巡る会「20年の記録」CDの作成に当たっては準備会メンバーに多大なご協力をいただきました。20年間の例会、バス探訪など活動の履歴や会員の履歴とともに、会員の声聞こえるものとして、入会の動機、会との係り、印象に残ることなど自由な寄稿を募り、雑感集として取りまとめました。このCD記録については会員準会員に配布いたしました。集合写真集は20年間の例会やバス探訪などの折に撮りためていた集合写真をフォトブックの形に取り纏めます。映像からその時々の記憶が蘇ることと思います。なお20周年当日の集合写真を含めませんので作成はこれからとなります。

創立から20年間、会員数は漸次増え50名を超えた時期もありましたが、高齢化とともに月例探訪への参加は難しくなる方が増え、令和2年度(2020)から準会員制度を設けました。9月時点での会員数は正会員34名、準会員13名の合計47名です。現在も設立時メンバーのうち3人の方が会員・準会員として継続され、通算の在籍会員は109人に上ります。

金沢区内から始めた探訪は鎌倉、横須賀、三浦、横浜市北部などにも及んでいます。会員の皆様から人気の高いバス探訪は、平成18年度(2006)から毎年の定例行事となり、伊豆、足利、房総、秩父など各地の寺社を訪ねました。しかしながらここ数年は新型コロナの影響で計画を中止せざるを得ない状況が続いています。以前のようにバス探訪も復活できる日が早くくれば良いと願っております。

寺社を巡る会は生まれて20年、人間でいえば20歳、成人式、青春真っただ中です。20歳を過ぎて、これまで以上に気力、体力を充実させ次の20年を目指してと言いたいところですが、当面の目標は創立25年の銀婚式に当たる令和8年度(2026)を目指して元気に探訪を続けましょうということでしょうか。懇親会の席上では金婚式50年を目指して頑張ろうという元気な声もありました。これからも会の状況を踏まえた活動、時代に見合った活動を継続していきたいと考えています。

最後に、20周年行事の開催に当たりご協力頂きました多くの関係者の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、さらなるご活躍を心より祈念いたします。ありがとうございました。

MEMO



行事予定

2022年12月～2023年1月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	12月	1月	2月
学習会	なし	なし	2月12日(日)市大カメラホール 13:30～16:30 【海軍水道と横浜の水道】 防衛大学校名誉教授田中宏巳氏
寺社を巡る会	12月1日(木)10:00 集合場所：鎌倉駅西口時計台広場 テーマ：頼朝と鎌倉歴史文化交流館 訪問先：(寿福寺)～源氏山公園～ 銭洗弁財天～佐助稲荷神社～鎌倉歴史文化交流館～鎌倉駅	1月5日(木)10:00 集合場所：鎌倉駅西口時計台広場 テーマ：新春の鎌倉 元八幡から二の鳥居へ 訪問先：一の鳥居～元八幡～大町八幡神社～本覚寺～妙隆寺～二の鳥居～鎌倉駅	2月10日(金)14:00 予定 集合場所：金沢公会堂 多目的室 テーマ：座学 DVD鑑賞(百寺巡礼) 永明寺(島根県)、富貴寺(大分県)、羅漢寺(大分県)
古文書を読む会	12月8日(木)10時～12時 場所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：更級日記④ 12月22日(木)10時～12時 場所：金沢公会堂リハーサル室 テーマ：吉宗と尾張藩宗春の角逐⑨	1月12日(木)10時～12時 場所：未定 テーマ：徳川慶勝①	2月9日(木)10時～12時 場所：未定 テーマ：徳川慶勝②
ふれあいの道歩こう会	11月30日(水)予備日 12月2日(金) 自然豊かな観音崎ハイク 神奈川県横須賀市	未定	未定
懐かしの映画を観る会	12月12日(月) 金沢CC 12:15～ ライフ・イズ・ビューティフル 12月26日(月) 金沢CC 12:15～ クライマーズ・ハイ	1月9日(月) 金沢CC 12:15～ インビクタス 1月23日(月) 金沢CC 12:15～ 街の灯	2月13日(月) 金沢CC 12:15～ レ・ミゼラブル 2月27日(月) 金沢CC 12:15～ 学校
浮雲俳句会	12月25日(日) 10:00～ 第166回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	1月29日(日) 10:00～ 第167回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句	2月26日(日) 10:00～ 第168回句会 会場：晴嵐かなざわ 課題：当季雑詠3句、兼題1句
パソコンを使いこなす会	12月13日(火)八景コミハ SNS 講座 -Twitter - 12月20日(火)八景コミハ SNS 講座 -YouTube - 9:30～12:00	1月10日(火)八景コミハ SNS 講座 -スマホ LINE - 1月17日(火)八景コミハ SNS 講座 -PC LINE - 9:30～12:00	2月14日(火)八景コミハ Internet 講座 -Google フォト - 2月21日(火)八景コミハ Windows 講座 -パソコンのカスタマイズ - 9:30～12:00

連絡先

- ・学習会 080-6755-1473(江口) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 783-0278(太田)
- ・ふれあいの道歩こう会 790-0128(柴崎) ・懐かしの映画を観る会 080-5172-6151(鶴岡)
- ・寺社を巡る会 090-1840-0916(横山) ・パソコンを使いこなす会 090-2539-8202(相川)

編集後記

2022年度の“わ”の会新入会員は19名。例年にないほどの大人数だ。7月16日に行なった新入会員懇談会・懇親会(2021年度新入会員と合同実施)にも、ほとんどの会員が出席し、懇親会は大変な盛り上がりを見せた。会員の期待に応え、組織を維持、発展させるためには組織を運営するリーダーの存在が不可欠となる。新入会員の中で今後、何人がそうした役割を担ってくれるのか。現在の組織を運営している運営委員、分科会のリーダーにとって、次代を担う人材を発掘し育成することは何にもまして重要なテーマになる。

鶴岡重典 記

発行日	2022年11月27日
発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	鶴岡 重典
編集委員	兒玉 國宏 鈴田 祥代 佐藤 和弘 松崎 寛 熊谷 信雄 橘 博章 斧原 良一 山腰 策次郎